

COLOR INKJET PLOTTER

JV2-160/180

取扱説明書

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとする。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とする。

一例として、本製品を使用してメディア（ワーク）等の損失やメディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとする。

本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 株式会社ミマキエンジニアリング 2000

All Rights Reserved. Copyright

©2000 MIMAKI ENGINEERING Co., Ltd.

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラス A 情報技術装置です。

この装置を家庭環境で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置の接続に於いて、当社指定のケーブルを使用しない場合は、VCCIルールの限度を超えることが考えられます。必ず、当社指定のケーブルを使用してください。

受信障害について

この製品は弱い電波を出すため正しく設置、使用されていない場合には、ラジオやテレビの受信障害の原因になることがあります。したがって特殊なラジオ／テレビに対しては保証しておりません。

もし、この製品がラジオ／テレビ受信の障害原因と思われましたら、この製品の電源スイッチをオン／オフして確かめてください。

もし障害の原因なら、次の方法を組み合わせて防止してください。

- 受信アンテナやフィーダの方向を変えてみる
- この製品の使用方向を変えてみる
- 受信機とこの製品の距離を離してみる
- この製品と受信機とは別の電源ラインを使用してみる

はじめに

この度は、カラーインクジェットプロッタ「JV2-160/JV2-180」をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本書は、カラーインクジェットプロッタ「JV2-160/JV2-180」（以後本装置と称します）の取り扱いについて説明いたします。

本装置では、7色のインクが使用できます。

本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。

おねがい

- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。

絵表示について

本書では、本装置を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を十分理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



💡記号は、知っておくと便利なことが描かれています。参考にしてください。

 警告	
<p>分解・改造はしない</p> <p> ★ 本装置やインクカートリッジの分解・改造は、絶対にしないでください。 感電や故障の原因になります。</p>	<p>電源・電圧について</p> <p>  ★ 表示された電源仕様で使用してください。 また、電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理されたコンセントに差し込んでください。 火災・感電の原因になります。</p>
<p>湿気の多い場所では使用しない</p> <p> ★ 湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。 火災や感電、故障の原因になります。</p>	<p>電源ケーブルの取り扱い</p> <p> ★ 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります</p>
<p>異常事態の発生</p> <p>  ★ 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。 お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。</p>	<p>インクカートリッジの取り扱い</p> <p>   ★ インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。 ★ インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。 ★ インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。万一、インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し医師の治療を受けてください。  ★ インクカートリッジのインクの詰め替えはしないでください。インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。</p>
<p>ロール紙について</p> <p> ★ ロール紙は重いので、落とさないよう注意してください。足などの上に落とすと、ケガをする恐れがあります。</p>	

使用上の注意

⚠注意

定期交換部品があります。



- ★ 本装置には、3000～5000時間で定期的に交換する部品（インク供給チューブ等）があります。保守契約をしていただくことをお勧めいたします。

ホコリから守る



- ★ できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。



- ★ 作図しないときも必ずフロントカバーは閉めておいてください。ホコリがヘッドノズルに付着する原因になります。



- ★ 夜帰宅する際は、メディアをロールハンガーに掛けっぱなしにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。



- ★ メディアは袋に入れて保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。



- ★ キャッピングステーションの拭き掃除（ホコリ、紙粉）はこまめに行ってください。また、毛羽だったワイバはホコリをこすりつけている事と同じですので、毛羽だったワイバは即交換してください。



- ★ 作図中に、突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちるのもホコリが原因です。この場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。（⇒4章メンテナンス機能）

フロントカバーとレバーについて



- ★ 作図中にフロントカバーを開けたり、レバーを上げたりしないでください。作図が終了してしまいます。

用紙について



- ★ 用紙は、JV2専用紙をお使いください。専用紙以外を使用して発生したトラブルについては、責任を負いかねます。



- ★ カールのきつい用紙は、カールを取り除いてから使用してください。カールがきついと、画質に影響を及ぼします。

キャストのロック



- ★ 必ず、アジャスターフットをロックしてから作図してください。ロックをしないで作図すると、装置が動きだす場合があります。

警告ラベルについて



- ★ 本装置には、2種類の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。添付位置は、付録Dをご覧ください。

プロッターへの圧力



- ★ プロッタの上に物を置いたり、手をつけて寄りかからないでください。画質に影響が出たり、プロッタが破損する原因になります。



⚠注意

インクカートリッジについて



★ カートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから利用してください。



★ カートリッジは、取付直前に開封してください。
開封した状態で長時間放置しておくと、正常に作図できない場合があります。



★ カートリッジは、開封してから6カ月以内に使い切ってください。

開封後、長時間経過したものは、作図品質が低下します。



★ カートリッジは、冷暗所で保存してください。

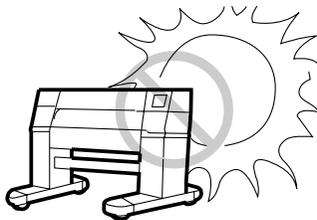
★ インクを詰め替えないでください。

★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。

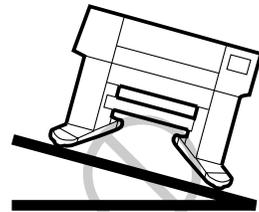
設置上の注意

⚠注意

直射日光が当たる場所



水平でない場所

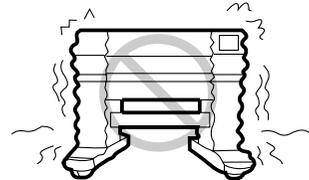


温度や湿度の変化が激しい場所

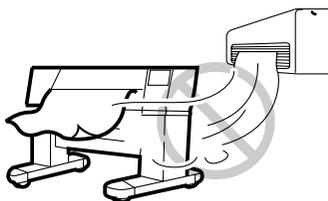


次の環境下でお使いください。
使用環境 : 18 ~ 25℃
35 ~ 65%(Rh)

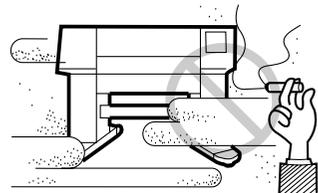
振動が発生する場所



エアコンなどの風が直接当たる場所

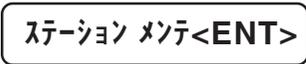


塵、ホコリやタバコの煙が充満している場所



本書の読み方

ディスプレイとキーの表記

ディスプレイ	<p>本文中では、[ステーションメンテ] のように [] でくくって表記します。</p> <p style="text-align: center;"></p>
キー	<p>図中および本文中を問わず、次のように表記します。</p> <p style="text-align: center;">   </p> <p style="text-align: center;">   </p>

本書の構成

1章 セットアップ

本装置の開梱から組み立てまで、またロール紙のセットなど、本装置のセットアップについて説明します。

2章 基本動作・基本機能

メディアの交換、インクカートリッジの交換などの基本動作、および通常使う基本機能について説明します。

3章 応用機能

便利な機能について説明します。

4章 メンテナンス機能

画質が悪化した場合の対処や確認するための機能およびワイパー・廃インクタンク・カッター刃の交換方法について説明します。

5章 困ったときは

本装置になんらかの異常が発生した場合のトラブルの解消方法について説明します。

付録

本装置の仕様、ファンクションメニュー構造、出力サンプル、および別売品のご紹介について説明します。

索引

知りたい機能および項目を検索するときにご覧ください。

本装置の特長

高作画品質の提供

新開発のピエゾ方式インクヘッドによりインクの飛び散り（サテライト）を除去し、最適なインク粒子の放出によって、高品質な画像を得ることができます。

最高720dpiの解像度で作画することができます。

耐光性に優れたインクを使用

顔料インクを採用したことにより耐光性に優れ、屋外用の大型カラーサインディスプレイ（看板等）が容易に作成できます。

ランニングコストを大幅に削減

インクとヘッドを分離し、インクカートリッジのみを交換するため低コストのインクカートリッジを実現。

またインクエンド検出機構により、空印字によるメディア、作図時間の無駄を防止します。

厚さ0.5mmまでのメディアに対応

メディアの厚さに応じて、ヘッドの高さを上下に調整することができます。これにより、0.1 mm厚未満のメディアから0.5 mm厚までのメディアに作図することができます。

JV2-160では、最大1620 mm（63.8インチ）幅のメディアをセットでき、最大1600 mm（63インチ）幅まで作図が可能です。

JV2-180では、最大1910 mm（75.2インチ）幅のメディアをセットでき、最大1870 mm（73.6インチ）幅まで作図が可能です。

コンピュータ側で各種設定が可能

付属の出力ソフトウェアを使用すると、プロッタ側で設定してある作図方式、乾燥時間等がコンピュータ側で設定できます。

便利な巻き取り装置を標準添付

巻き取り装置はプロッタと連動しており、作図を開始すると自動的にロール紙を巻き取ります。また、作図が終了すると自動的に巻き取りも停止します。

また、巻き取り装置は後行程に合わせて、外巻き、内巻きの切り換えがワンタッチです。

巻き取り装置を使用することにより、長尺作図の際のメディアの管理が容易になります。

目次

はじめに	1
安全にお使いいただくために	2
使用上の注意	4
設置上の注意	5
本書の読み方	6
ディスプレイとキーの表記	6
本書の構成	7
本装置の特長	8

1章 セットアップ

設置場所	1-2
付属品の確認	1-3
各部の名称とはたらき	1-6
前面	1-6
背面	1-8
キャリッジ	1-10
キャッピングステーション	1-11
操作パネルの名称とはたらき	1-12
ジョグキーのはたらき	1-13
組み立て	1-14
脚と本体の組み立て	1-14
巻き取り装置の使い方	1-20
用紙サポートの取り付け	1-22
ヘッドストッパーの取り外し	1-22
ケーブルの接続	1-23
パラレルインターフェイスケーブル	1-23
電源ケーブル	1-24
電源のオン/オフ	1-25
電源のオン	1-25
電源のオフ	1-26
各モードについて	1-27

インクカートリッジについて	1-28
取り扱い上の注意	1-28
はじめてインクカートリッジを取り付けるときは	1-29
インクヘッドについて	1-32
メディアのセット	1-33
ピンチローラとフィードローラの関係	1-33
メディアセンサーのはたらき	1-34
メディア検出について	1-35
メディア検出の設定[メディア ケンシュツ]	1-37
メディア検出方法	1-39
メディアの厚さに応じてヘッドの高さを調整	1-40
ロール紙のセット	1-42
本装置の移動	1-48
移動方法	1-48
アジャスターフットの固定	1-48

2 章 基本動作・基本機能

メディアの取り扱い方	2-2
メディア取り扱い上の注意	2-2
使用できるメディア	2-3
有効作図エリア	2-4
フロントカバーの開閉について	2-5
メディアの交換	2-6
ロール紙の交換	2-6
リーフ紙のセット	2-11
メニューの基本操作	2-14
作図の開始	2-16
[** リモート **] 表示が点滅したら	2-16
作図を中止するには[デ`タリア]	2-17
原点（作図原点）の設定	2-18
各種設定値のユーザー選択	2-20
各ユーザー内の設定値を変更したい場合	2-20
ユーザー番号を変更したい場合	2-21
作図方向と分割方式の設定[ウズ` 約シキ]	2-22

特色のみで出力[アートワークモード]	2-24
アートワークモードのテストを実行する[アートワークテスト]	2-26
ノズルの状態を確認する[ノズルチェック]	2-26
塗り潰しの状態を確認する [スリッパシ]	2-28
1440dpiモードの設定 [1440dpiモード]	2-30
360dpi拡張モード [360dpi カチヨウ]	2-32
用紙の送り量を補正[オリ 紙イ]	2-34
インク乾燥時間とメディアカット時間の設定[カソウジ カ]	2-36
メディアの自動裁断[オートカット]	2-38
インクカートリッジの交換	2-40
ローカルモードでインク残量が少なくなった場合	2-40
作図中にインク残量が少なくなった場合	2-41
インクカートリッジの交換方法	2-42
違う種類のインクに入れ替える場合	2-45
インクを排出する[インクハシユツ]	2-45
インクを充てんする[インクジ ュウテン]	2-46
ヘッドの保護	2-47
キャッピング	2-47
お手入れ	2-48
紙粉の除去	2-48
外装のお手入れ	2-48

3 章 応用機能

デッドスペースの変更[ミギマージン]	3-2
重ね塗りの設定[カネリ]	3-4
ディスプレイの表示単位の設定[ミリインチ]	3-6
ディスプレイの表示言語の設定[DISPLAY]	3-8
同一データの再作図[コピー]	3-9
手動でメディアをカットするには[メディアカット]	3-11
設定値の優先順位の設定[ウセシ ユンイ]	3-12

メディアの吸着力の設定[キウチヤク]	3-14
設定値の初期化[セッテイ リセット]	3-16

4 章 メンテナンス機能

各色のヘッドのズレ補正[ドット 仔細]	4-2
ヘッドのリフレッシュレベルの設定[リフレッシュ]	4-6
ヘッドのクリーニング[クリーニング]	4-8
テスト作図の実行[テスト カス]	4-10
ワイパのクリーニング[ステーション メンテ]	4-12
ワイパ交換とキャップのクリーニング[ステーション メンテ]	4-15
ワイパの交換	4-15
キャップのクリーニング	4-18
ダンプの実行[ダンプ]	4-20
設定状態の作図[リスト]	4-21
廃インクタンクの交換方法	4-22
裁断用カッター刃の交換	4-23

5 章 困ったときは

故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
紙づまりが起こる／メディアが汚れる	5-3
画質不良がでたとき	5-4
白いスジ／カスレが気になる（ヘッド移動方向）	5-4
往復印字でズレが発生する	5-4
色ごとにインクが重ならない	5-4
ワーニングエラー	5-5
メッセージを表示するトラブル	5-5
エラーメッセージ	5-6

付録

A	基本仕様	付録-2
	本体仕様	付録-2
	双方向パラレルインターフェイス仕様	付録-3
	インク仕様	付録-4
	増設受信メモリ仕様	付録-4
B	ファンクションメニュー構造	付録-5
C	出力サンプル	付録-6
	テスト作図	付録-6
	リスト	付録-7
	ダンプリスト	付録-8
D	警告ラベルの添付位置	付録-9

索引

1章

セットアップ

1章では、本装置の開梱から組み立てまで、またロール紙のセットなど、本装置のセットアップについて説明します。

1

セ
ツ
ト
ア
ッ
プ

本章の内容

設置場所

付属品の確認

各部の名称とはたらき

組み立て

ケーブルの接続

電源のオン/オフ

各モードについて

インクカートリッジについて

インクヘッドについて

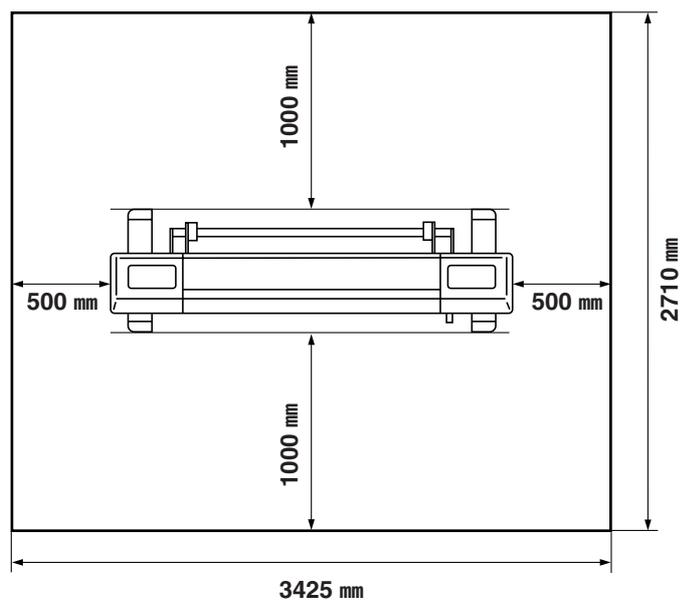
メディアのセット

本装置の移動

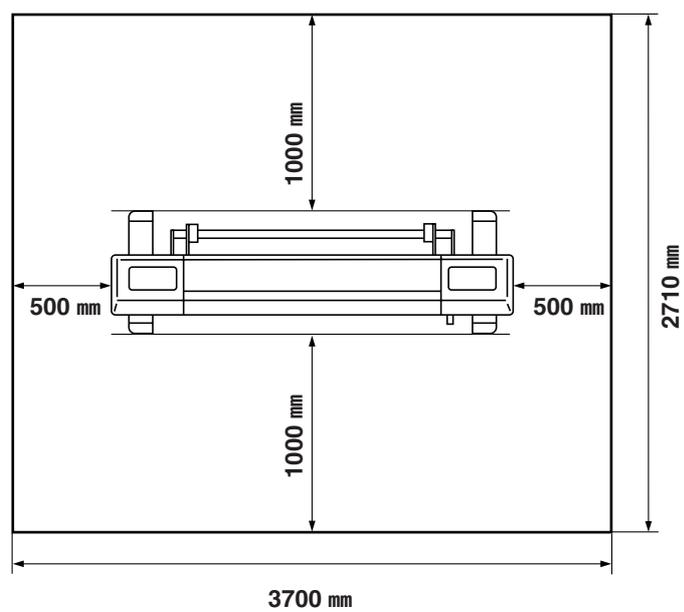
設置場所

下図のように、設置スペースを確保できる場所に本装置を設置してください。

●JV2-160



●JV2-180

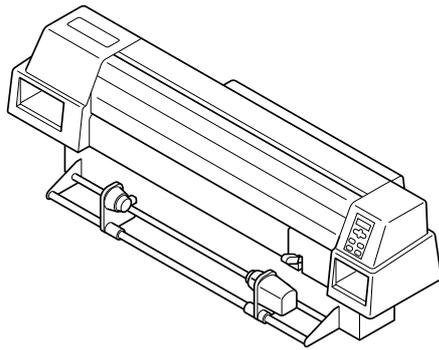


付属品の確認

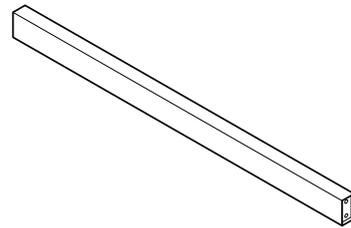
梱包箱を開け、部品を確認してください。
もし不足しているものがありましたら、お買い求めいただいた販売店、または最寄りの販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

1

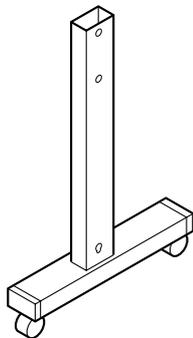
セットアップ



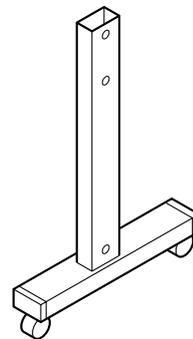
本体



ステー



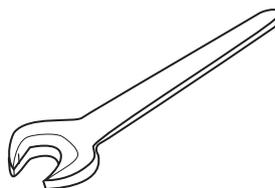
左脚



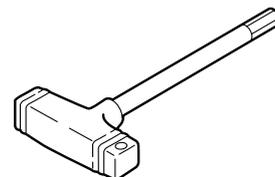
右脚



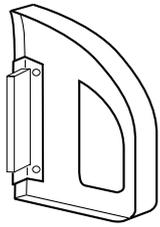
ゴムキャップ 6ヶ



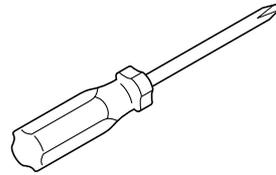
スパナ



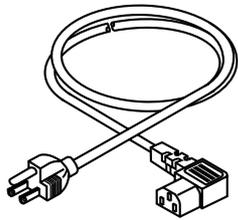
六角レンチ



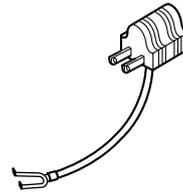
用紙サポート 4ヶ



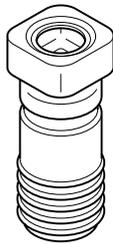
プラスドライバー



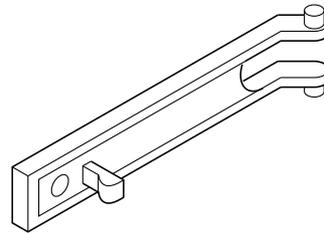
電源ケーブル



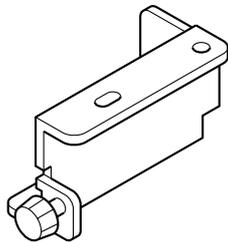
接地アダプタ



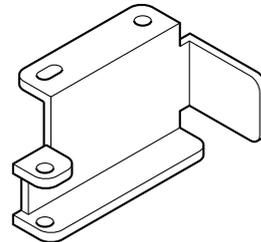
廃インクタンク 2ヶ



廃インクタンクガード



廃インクブラケットL



廃インクブラケットR



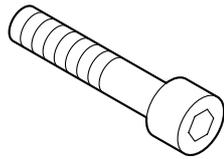
廃インクブラケット取付用ネジ 4ヶ



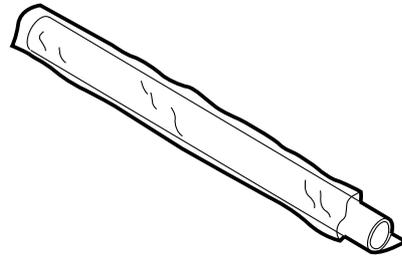
インクカートリッジ (各色1ヶ)

1

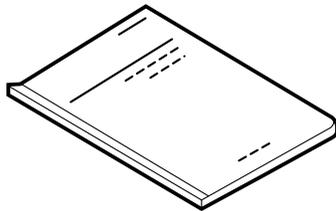
セ
ッ
ト
ア
ッ
プ



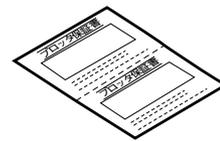
本体取付用ボルト 6ヶ



作図フィルム (設置調整用)



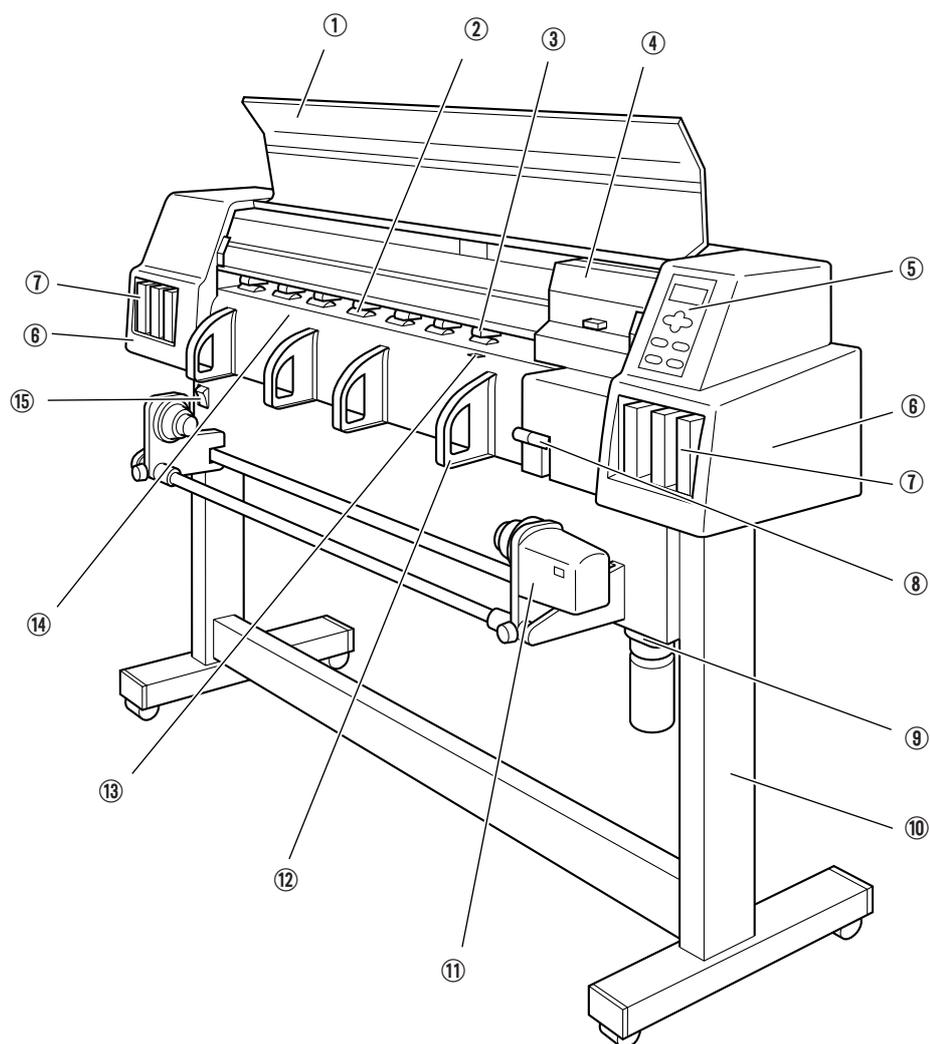
取扱説明書 (本書)



保証書

各部の名称とはたらき

前面

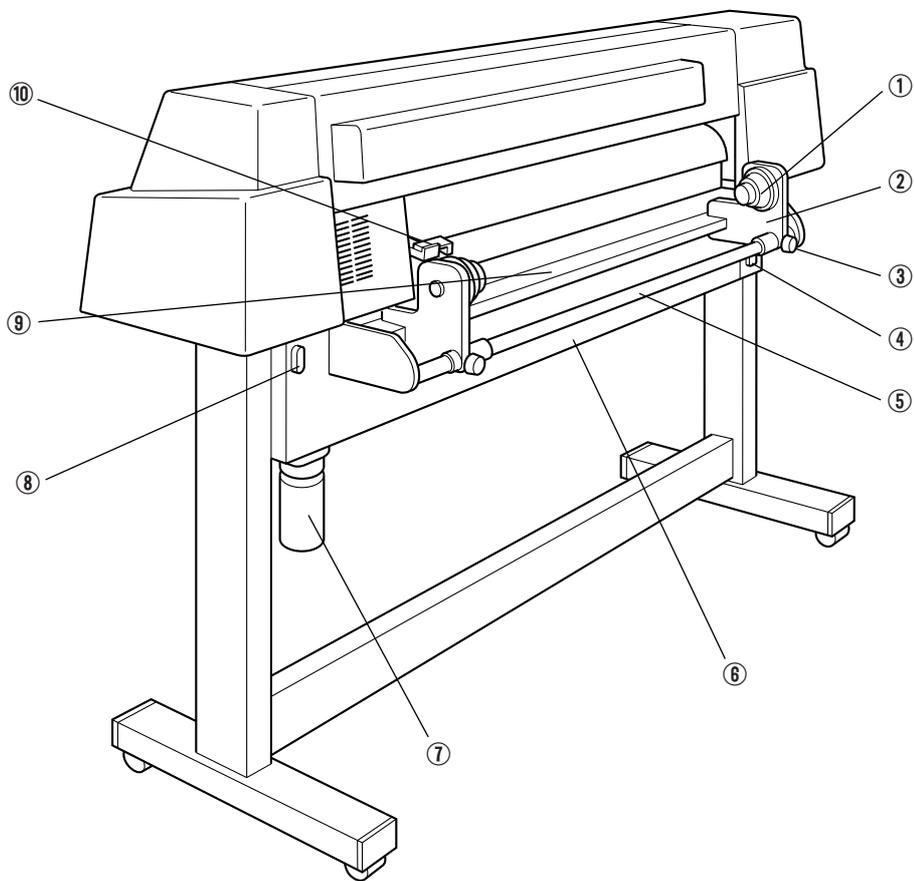


No.	名称	はたらき
①	フロントカバー	用紙をセットする際、用紙詰まりの処置の際に開けます。(フロントカバーを開けた際には、可動部分に十分注意してください。)また本体内部へのゴミ、ほこりの進入を防止します。
②	フィードローラ	用紙送りのためのローラーです。用紙を押さえるピンチローラと対になり、用紙を前後にフィードさせます。
③	ピンチローラ	用紙を押さえるローラーです。
④	キャリッジ	印字するために左右に動きます。印字ヘッド、メディア裁断用、および紙幅センサー等が内蔵されています。
⑤	操作パネル	本装置の操作、および設定を行います。
⑥	インクステーション	各色のインクカートリッジをセットします。インク色によってカートリッジをセットする場所が決まっています。
⑦	インクカートリッジ	各色のインクが入っています。(カートリッジは上下を間違えないようセットしてください。)
⑧	クランプレバー	用紙を押さえるためのピンチローラを上下させるレバーです。
⑨	廃インクブラケット	廃インクタンクを取り付けるためのブラケットです。
⑩	脚	本体を支えるスタンドです。キャスター付きで、本装置の移動が可能です。
⑪	巻き取り装置	印刷されたロール紙を巻き取る装置で、FORWARD/OFF/REVERSE 操作が可能です。
⑫	用紙サポート	用紙をスムーズに送るためにサポートします。キャンパス等の硬めのメディアの浮き上がり防止に効果があります。
⑬	メディアセンサー	プラテンの前後にあるセンサーで、メディアの有無やメディアの先端、終端を検出します。
⑭	プラテン	印刷する際に印字ヘッドが通過する位置で、プラテン上にて用紙が平らになるように用紙を送ります。
⑮	電源スイッチ	本装置の電源をオン/オフします。

1

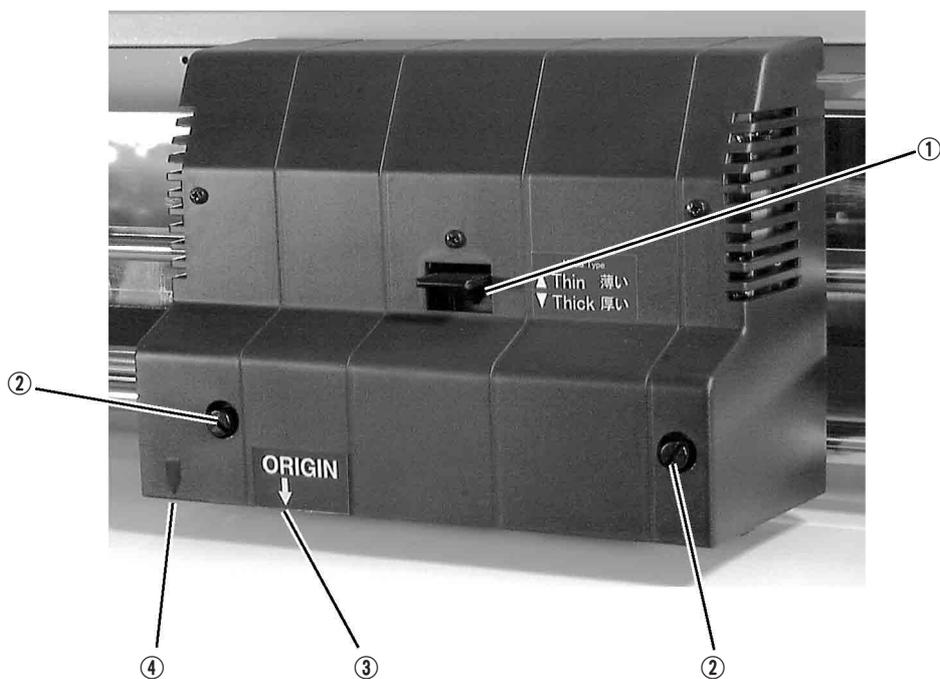
セ
ッ
ト
ア
ッ
プ

背面



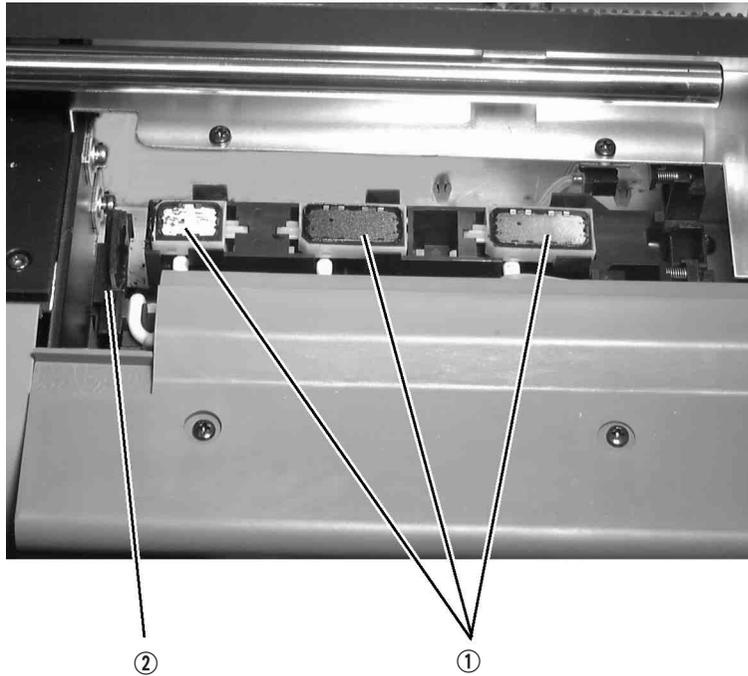
No.	名称	はたらき
①	ロールホルダー	ロール紙を左右のホルダーにて保持します。ホルダーはロール紙管の径2インチと3インチに対応しています。
②	ロールホルダーベース	ロールホルダーを移動するためのベース板です。
③	ホルダーベースネジ	ロールホルダーベースを固定するネジです。ロール紙の幅に合わせて、ホルダーベースネジを固定します。電源およびメイン基盤等を搭載しているボックスです。
④	ACインレット	電源ケーブルを接続します。
⑤	シャフト	ロールホルダーを動かすためのガイドです。また、ロール紙を取り付けるときに、ロール紙をのせることができます。
⑥	電装ボックス	電源およびメイン基盤等を搭載しているボックスです。危険ですので、お客様による開閉はしないでください。
⑦	廃インクタンク	廃インクを溜める、廃インクタンクです。
⑧	パラレルコネクタ	双方向パラレルインターフェイスコネクタです。 (IEEE1284準拠)
⑨	ガイドレール	ロールホルダーを動かすためのガイドです。
⑩	ロールストップ	ロール紙を取り付ける際、ロール紙の回転を止めメディアのテンションを保持するため、ロール紙のセットを容易にします。

キャリッジ



No.	名称	はたらき
①	高さ調整レバー	メディアの厚さによって、ヘッドの高さを上下に調整できます。(レバーは必ず2位置のどちらかにセットしてください。)
②	ヘッド固定ネジ	高さ調整レバーを使用するとき、このネジを緩めます。
③	オリジン位置マーク	作図の基準となるオリジン（作図原点）を設定するための位置合わせ用のマークです。
④	カッター部	メディア裁断用のカッターが入っている部分です。

キャッピングステーション



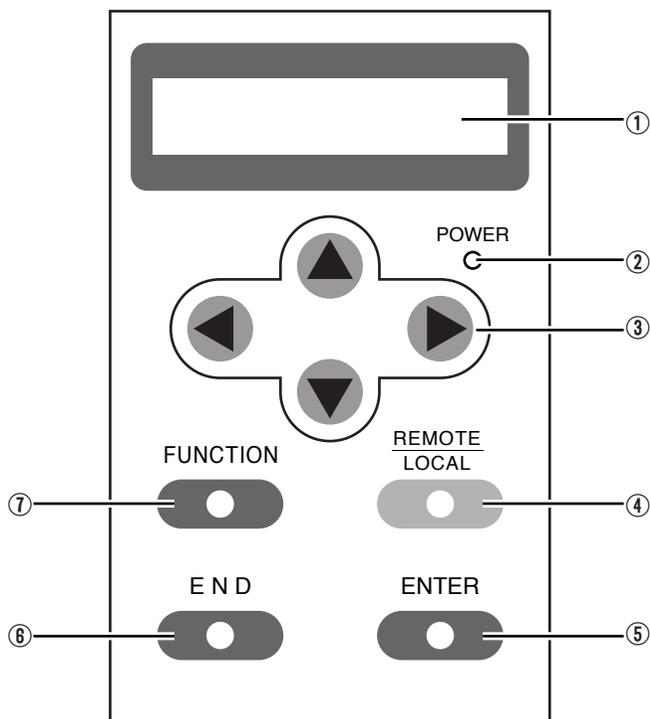
1

セットアップ

No.	名称	はたらき
①	キャップ	ヘッドノズルが乾燥しないように、ノズルを覆います。
②	ワイパ	ヘッドノズルをクリーニングします。

操作パネルの名称とはたらき

操作パネルには、キーやランプおよびディスプレイが、次のようにレイアウトされています。



No.	名称	表記方法	はたらき
①	ディスプレイ		本装置の状態や機能を設定するメニューなどを表示します。
②	POWERランプ		本装置の電源をオンすると点灯します。(緑色)
③	ジョグキー		ローカルモードで、キャリッジやメディアを移動します。また、設定メニューでは、設定値を選択します。

No.	名称	表記方法	はたらき
④	REMOTE/LOCALキー		リモートモード／ローカルモードを切り替えます。
⑤	ENTERキー		ファンクション機能を選択するときに使います。また、設定メニューで入力した値を登録します。ローカルモードでジョグキーによりヘッドやメディアを移動し、オリジン（作図原点）を設定します。
⑥	ENDキー		直前に入力した値をキャンセルします。 メディアをセットしたとき（クランプレバーを下げたとき）、メディア幅のみの検出を行います。
⑦	FUNCTIONキー		ファンクション機能を設定するためのファンクションモードに移ります。

ジョグキーのはたらき

	シート検出前	シート検出後	機能選択時	選択肢入力時
	メディア幅とメディア先端を検出します。	キャリッジを左へ移動します。	_____	_____
	メディア幅とメディア長を検出します。	キャリッジを右へ移動します。	_____	_____
	_____	メディアを奥へ移動します。	1つ前の機能に戻ります。	次の値を選択します。
	_____	メディアを手前に移動します。	次の機能に移ります。	1つ前の値を選択します。

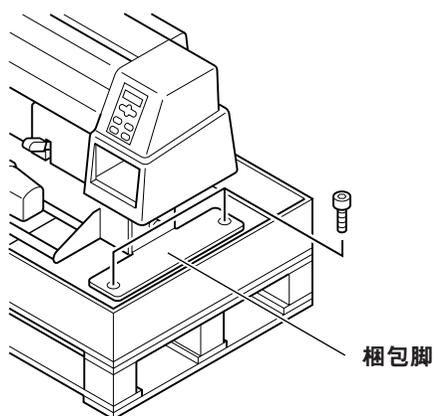
組み立て

脚と本体の組み立て

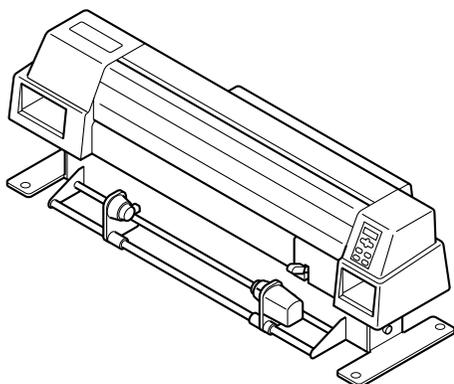


警告

- ★ 本体の重量は、100kg以上です。安全のため4人以上で組み立ててください。
- ★ 本体を足の上に落とさないように注意してください。

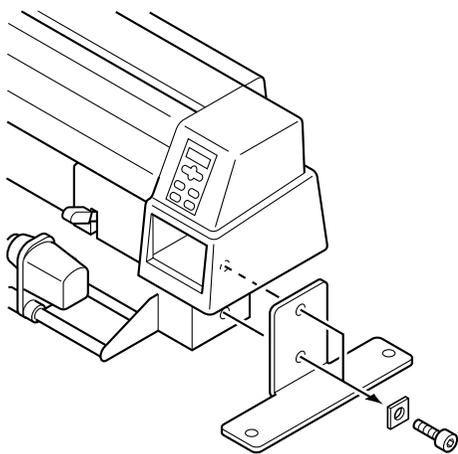


- ① 梱包脚と梱包パットを止めているボルト4ヶを外します。



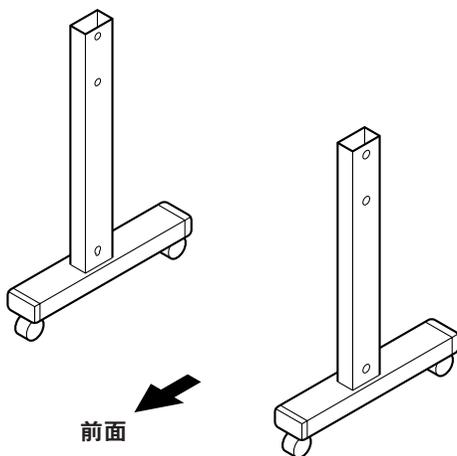
- ② 本体を梱包脚ごと梱包箱から取り出し、床に置きます。

- ③ 本体と梱包脚を止めている左右のボルト4ヶを外します。



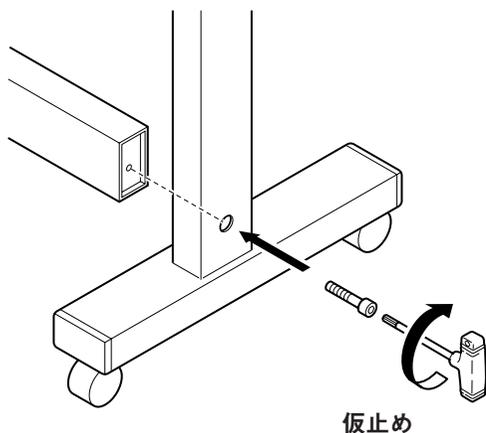
- ④ 梱包箱から脚を取り出します。

ネジ取り付け用の丸い穴を、外側に向けてください。



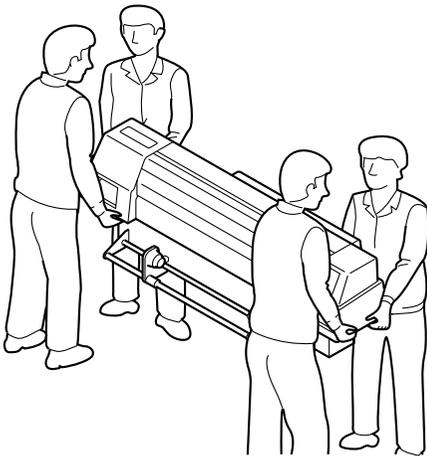
- ⑤ ステーを脚に仮止めします。

ボルトをステーに取り付けます。
ステーのボルトを脚の穴に引っかけて、付属の六角レンチで仮止めします。

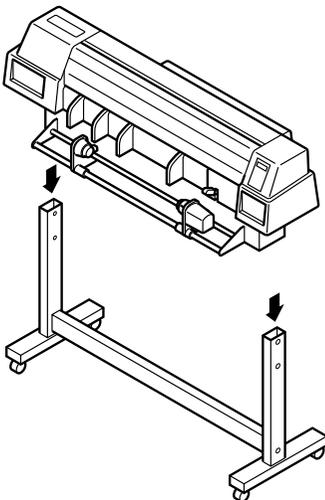


⑥ 脚の4ヶのアジャスターフットを固定します。

足ASSYが動かないように、付属のスパナでアジャスターフットを回して伸ばします。



⑦ 4人で本体の両端を持ちます。

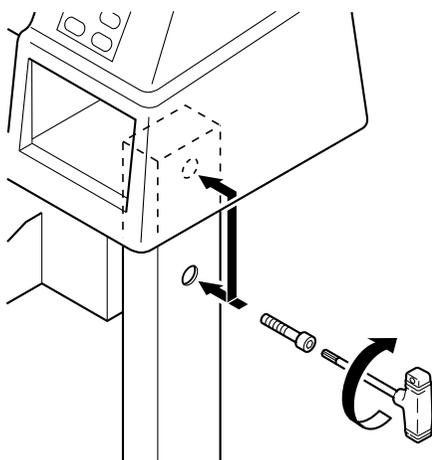


⑧ 手を挟まないように注意しながら、本体を脚にのせます。

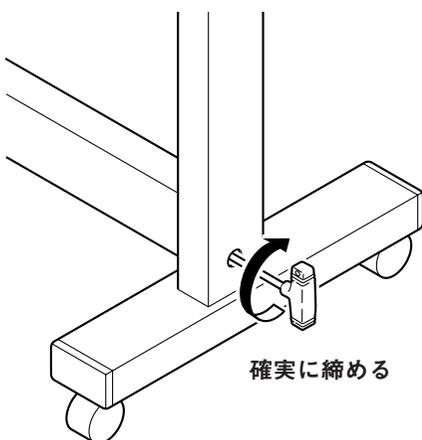
脚のネジ穴と本体のネジ穴を合わせてください。



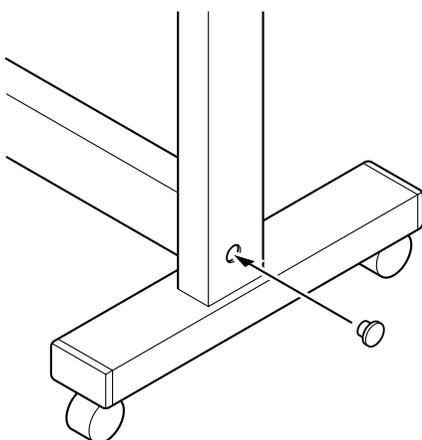
★本体は重いので、落とさないよう注意してください。

**⑨ 本体を脚に固定します。**

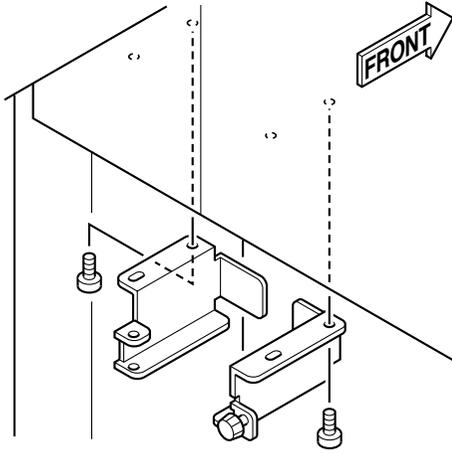
本体取り付け用ボルトを脚の穴に差し込みます。付属の六角レンチでボルトを締め、脚を本体に取り付けます。

**⑩ スターのボルトを確実に締めます。**

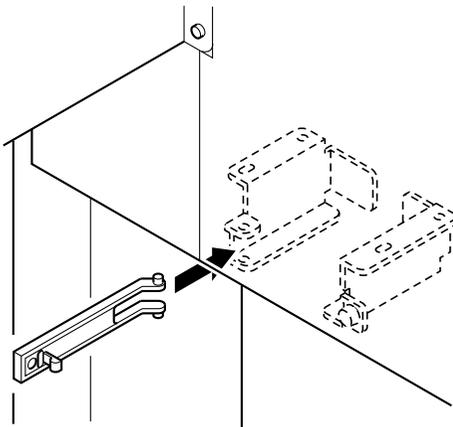
仮止めしてある脚のボルトを確実に締めます。

**⑪ ゴムキャップをはめます。**

スターをボルト止めしている脚の穴にゴムキャップをはめます。(6カ所)



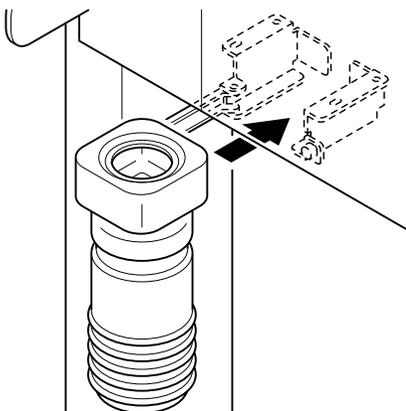
- ⑫ タンクブラケットL、Rを各2ヶのネジで電装ケースに取り付けます。



- ⑬ 廃タンクガードをタンクブラケットRに取り付けます。

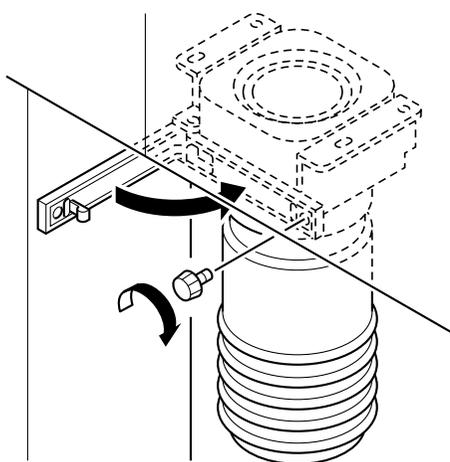


● 廃タンクガードの先をつまむようにすると、取り付けやすいです。



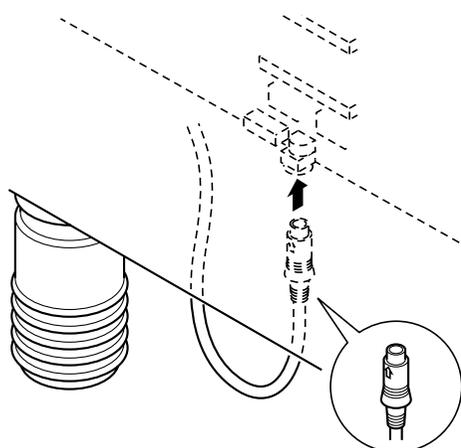
- ⑭ 廃インクタンクをタンクブラケットに取り付けます。

タンクのくぼみをレールにスライドして入れます。



- ⑮ 廃タンクガードを押し込みます。

廃タンクブラケットLに取り付けてある廃インクタンク固定ネジを外し、廃インクタンクを押し込んだ後固定ネジで固定してください。



- ⑯ 巻き取り装置のケーブルを本体底にあるコネクタに差し込みます。

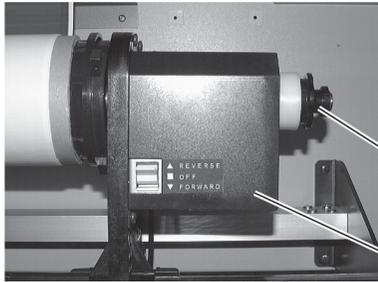
コネクタの矢印（↑）を本体の背面側に向けて差し込んでください。

- ⑰ アジャスターフットを縮め、設置場所に移動します。

移動後はアジャスターフットを伸ばし、ナットでロックします。

巻き取り装置の使い方

巻き取り装置には、メディアの巻き取り方向を設定するスイッチがあります。



REVERSE 作図面を内側にして巻き取ります。

OFF: 巻き取りを行いません。

FORWARD: 作図面を外側にして巻き取ります。

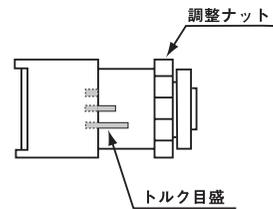
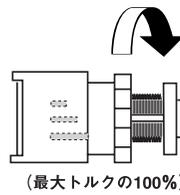
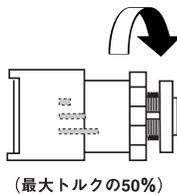
トルクリミッタ

巻き取り装置

トルクリミッタは巻き取り装置と、背面のロールホルダーの2カ所にあります。トルクリミッタを調整することにより、巻き取りの強さを調整することができます。ロール紙が重くテンションが張りにくい時に、トルクリミッタの調節を強めてください。

- 時計回り : 強くなる
使用メディア: ターボリン等の
厚いメディア

- 反時計回り : 弱くなる
(0ポイント,minトルク)
使用メディア: 軽いメディア

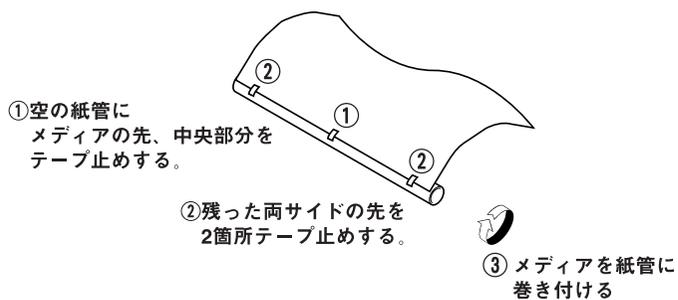


注意

- ★ トルクリミッタの調節が弱すぎると、メディアを確実に巻き取ることができません。またトルクリミッタの調節が強すぎるとメディアが張りすぎ、画質に影響する場合があります。
- ★ 巻き取り装置側のトルクリミッタがロールホルダー側より弱いと、メディアがスムーズに送れない場合があります。ロールホルダー側より、巻き取り装置側のトルクリミッタを若干強めに設定してください。

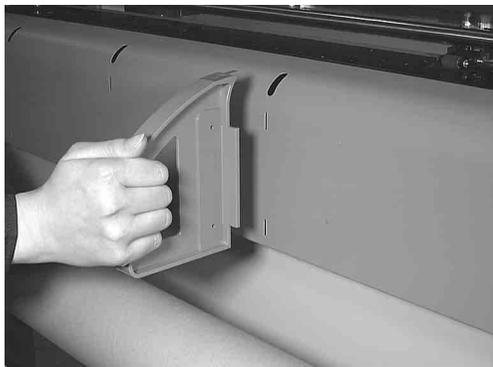
紙管へのテープ止め

幅の広いメディアを使用すると、紙管にメディアが巻き付きにくくなる場合があります。図を参照し、メディアを固定してください。



用紙サポートの取り付け

キャンバス等の硬めのメディアの浮き上がりを防止するために、用紙サポートを取り付けます。



- ① 用紙サポートのフックをプラテンの穴に掛けます。

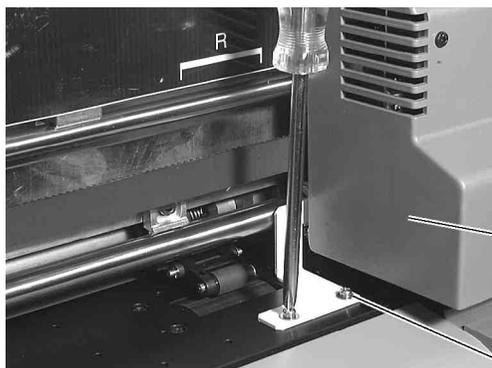
使用するメディアの幅に応じて、取り付け位置と個数を変更してください。

ヘッドストッパーの取り外し

ヘッドストッパーは、搬送時にキャリッジを固定します。



★ 搬送時に使用できるように、紛失しないよう注意してください。



- ① 2ヶのネジを外し、ヘッドストッパーを外します。

ネジとヘッドストッパーは紛失しないよう保管してください。

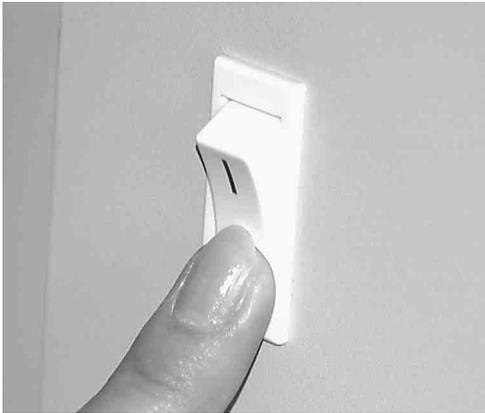
キャリッジカバー

ヘッドストッパー

ケーブルの接続

- !** ★ インターフェイスケーブルおよび電源ケーブルを接続する際は、本装置の電源スイッチをオフ（○側に倒れている状態）にしてから行ってください。また、接続はインターフェイスケーブル、電源ケーブルの順で行ってください。誤動作の原因になります。

パラレルインターフェイスケーブル



- ① 電源スイッチをオフにします。

本装置およびコンピュータの電源がオフになっていることを確認します。



- ② ケーブルコネクタを接続します。

インターフェイスコネクタの両サイドのロックスプリングで、ケーブルコネクタを固定します

電源ケーブル

以下の仕様のコンセントに、電源ケーブルを接続してください。

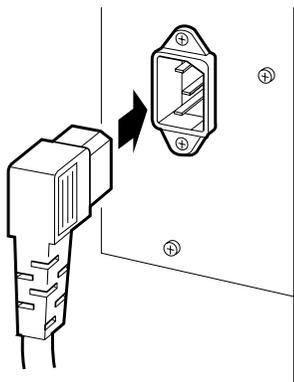
- ・電圧 : AC 100 V - 240 V \pm 10 %
- ・周波数 : 50/60 Hz \pm 1 %
- ・容量 : 1.5 A以上 (100 W以上)



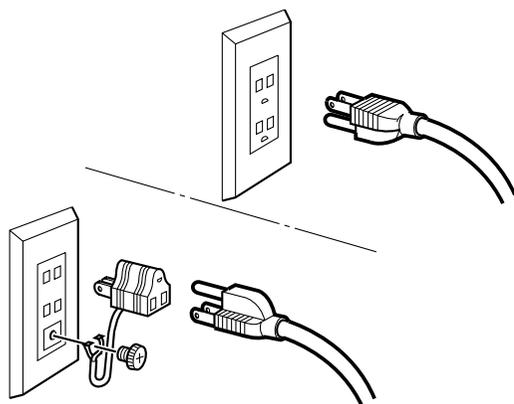
★ 電源ケーブルは、アース処理されたコンセントに接続してください。感電および本装置が破損する恐れがあります。



★ 電源ケーブルを接続するときは、本装置の電源スイッチをオフにしてください。



① ACインレットに電源ケーブルを接続します。



② 電源ケーブルを3極のコンセントに接続します。



2極のコンセントの場合は、電源ケーブルのプラグに付属の接地アダプタを接続します。接地アダプタの緑色の線（アース線）を、アース処理してください。

電源のオン／オフ

以下の手順に従って電源のオン／オフを行ってください。

電源のオン



- ① 接続してあるコンピュータなどの電源をオンにします。

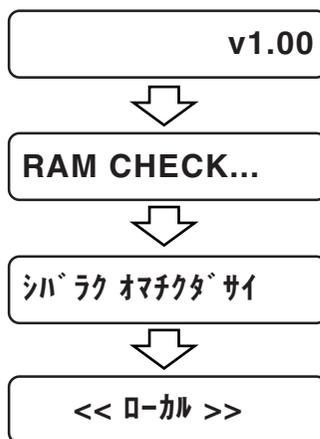
- ② 本装置の電源を入れます。

電源スイッチを「|」側に倒すと、電源がオンになります。

! ★このとき、フロントカバーは閉じておいてください。(⇒P.2-5)

ファームウェアのバージョンを表示した後、RAMのチェックおよび初期動作を実行します。また、メモリを増設している場合は、メモリ容量を表示します。

その後、ローカルモードになります。



1

セ
ツ
ト
ア
ツ
プ

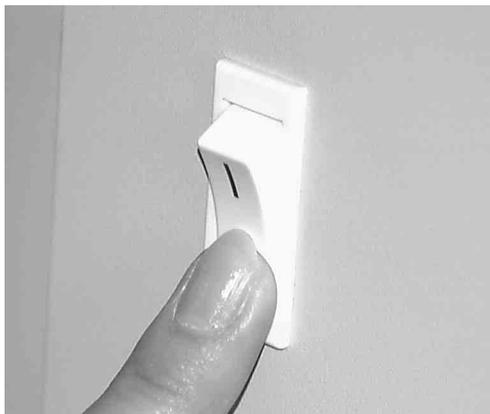
電源のオフ

電源をオフにするときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないか確認してください。

また、ヘッドがキャッピングステーションにあることを確認してください。



★ 作図中に電源をオフすると、ヘッドがキャッピングステーションに格納されない場合があります。キャッピングしていない状態で長時間放置するとノズル詰まりの原因になります。もし、キャッピングしていないまま電源をオフした場合は、再度電源をオンにしてください。ヘッドがキャッピングステーションに戻り、ヘッドの乾燥を防ぎます。



① 本装置の電源を切ります。

電源スイッチを「○」側に倒します。

各モードについて

本装置には、次の4つのモードがあります。

ノットレディモード

メディア検出する前のモードです。**REMOTE/LOCAL**キー以外のキーが有効です。

ローカルモード

メディア検出後のモードです。
全てのキーが有効です。
コンピュータからのデータを受信できます。ただし、作図は行いません。

ファンクションモード

ローカルモード時に、**FUNCTION**キーを押すとファンクションモードになります。各ファンクション機能の設定を行います。

リモートモード

受信したデータを作図します。
作図中に、**REMOTE/LOCAL**キーを押すと一時停止します。
REMOTE/LOCALキーのみ有効です。リモートモードとローカルモードを交互に切り替えます。

インクカートリッジについて

取り扱い上の注意

-  ★ インクカートリッジは分解しないでください。
-  ★ インクには毒性はありませんが、インクに直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまったときは、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
-  ★ インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。
-  ★ インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。
-  ★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。
-  ★ インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
-  ★ インクカートリッジは開封してから6カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。
-  ★ インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
-  ★ インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
-  ★ 空になったインクカートリッジは、使用している地域の条例に従って処分してください。

はじめてインクカートリッジを取り付けるときは

本装置を初めて使用するときは、本装置にインクを充てんする必要があります。以下の手順にしたがって、カラー番号2から7までのインクカートリッジを取り付けてください。カラー番号1には特色のインクカートリッジを取り付けます、必要に応じて取り付けてください。



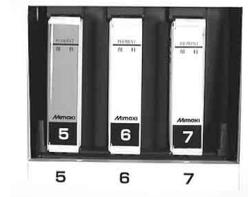
★ **注意** 特色以外のインク6色は必ずインクステーションに差し込んでください。6色のカートリッジをセットしないと動きません。

インクの充てん： プリントヘッドにインクを満たして作図できる状態にすることをいいます。

インクカートリッジは、下表のように取り付ける場所が決まっています。



1	2	3	4
特色	ブラック	シアン	グリーン ライトシアン または



5	6	7
マゼンタ	オレンジ ライトマゼンタ または	イエロー



★ **注意** インクの組み合わせ（グリーンとオレンジ、またはライトシアンとライトマゼンタ）は、お客様のご要望により工場出荷時にどちらか1つに設定します。インクの組み合わせを変更する際は、販売店または弊社営業所までご連絡ください。お客様でのインクの組み合わせの変更は行わないでください。



① 電源スイッチをオンにします。

初期動作後、次のメッセージを表示します。

!カートリッジ



交互に表示します

[234567]

インクカートリッジが取り付けしていないステーション番号を表示します。



★ 1番のインクステーションには特色インクが入ります。特色インクを使用しない場合は、1番のステーション番号は表示しません。



② 手順①のディスプレイ表示をしてから、インクステーションに各インクカートリッジを差し込んでください。



★ 必ず、手順①のディスプレイ表示をしてから、インクカートリッジを差し込んでください。

インクカートリッジ底の2個の突起をインクステーションのレールに合わせて差し込みます。インクカートリッジを正規の位置まで差し込むとブザーが鳴ります。



★インクカートリッジは該当しないインクステーションには入らない構造になっております。

③ 自動的にインクの充てんを開始
します。

インクの充てんが終わると、ローカル
モードになります

** ジュウテン **

<< ローカル >>

1

セ
ッ
ト
ア
ッ
プ

インクヘッドについて

本装置では、特色以外は3色が一体のヘッドを使用しています。

インクカートリッジの カラー番号	1	2	3	4	5	6	7
色	特色	ブラック	シアン	グリーン または ライトシアン	マゼンタ	オレンジ または ライトマゼンタ	イエロー
対応ヘッド	左端のヘッド に1色分	中央のヘッドに3色分			右端のヘッドに3色分		



注意

- ★ インクの組み合わせ（グリーンとオレンジ、またはライトシアンとライトマゼンタ）は、お客様のご要望により工場出荷時にどちらか1つに設定します。インクの組み合わせを変更する際は、販売店または弊社営業所までご連絡ください。お客様でのインクの組み合わせの変更は行わないでください。



注意

- ★ 本装置のディスプレイでは色の名称ではなく、カラー番号（カラー1、カラー2、……カラー7）で各色を指す表現となっています。本書でも以降は色の名称ではなく、カラー番号で各色を示します。



注意

- ★ クリーニング、インク充てん等はヘッド単位で行います。カラー番号2～4、および5～7内で各色を個別にクリーニング、インク充てん等行うことはできません。



注意

- ★ カラー1には、特色のインクカートリッジを装着できます。特色を使用しない場合は、インクカートリッジを取り付ける必要はありません。特色インクカートリッジを取り付けておくと、特色を使用しない場合でもクリーニング動作等でインクは消費されます。特色を使用する場合は、カラー1のインクステーションに特色のインクカートリッジを差し込んでください。自動的にインク充填を行います。インク充填が終了すると、特色インクが使用可能になります。以降は、インクカートリッジの有無およびインク残量検出の対象になります。

メディアのセット

ピンチローラとフィードローラの関係

本装置は、ピンチローラとフィードローラでメディアを保持します。フィードローラとピンチローラは、プラテン上の決められた位置にあります。



★ 回転しているフィードローラに触らないでください。フィードローラとプラテンに挟まれケガする恐れがあります。



★ 本装置を使わないときは、ピンチローラを上げた状態にしてください。下げた状態のまま長時間放置しておくと、ピンチローラが変形しメディアを確実に保持できなくなる場合があります。



★ リーフ紙の右端は、最も右側のフィードローラから15mm以上はみ出さないようにしてください。メディア検出のエラーになります。

1

セ
ッ
ト
ア
ッ
プ

メディアセンサーのはたらき

プラテン上には、2ヶのメディアセンサーがあります。
メディアセンサーは、メディアの有無とメディアの長さを検出します。



★ 透明なメディアや裏面が黒いメディアをお使いになると、ディスプレイに次のメッセージを表示し、メディアを検出できない場合があります。

*** メディアが アリマセン ***

★ メディアは必ずプラテン後部側のメディアセンサーを覆い隠すようにセットしてください。センサー上にメディアがないと、メディアは検出されません。

メディア検出について

クラムプレバーでメディアを保持すると、次のように表示します。



このとき、メディア検出の方法を選択します。
ここでは、次の3つのキーが有効です。



セ
ット
ア
ップ

キー			
	メディア幅とメディア先端	メディア幅とメディア長	メディア幅のみ
検出方法	手前	手前	手前
	● キーを押すと、キャリッジがメディア幅を検出した後、メディアを巻き戻しメディアの先端を検出します。	● キーを押すと、キャリッジがメディア幅を検出した後、メディアを前後にフィードしてメディア長を検出します。	● キーを押すと、キャリッジがメディア幅のみを検出します。この動作は、メディアを長く引き出している時に、メディア長の検出する時間を省くことができます。
検出後のメディアサイズ表示例	X=**** Y=1270	X=2450 Y=1270	X=**** Y=1270



注意

- ★ メディア長の検出を行うと、コンピュータから受信したデータがセットしたメディアより大きな場合、はみ出た部分は作図できません。
メディア長の検出を行わないと、メディアセンサーから外れた時点で作図動作が終了してしまいます。

メディア検出の設定[メディア ケンシツ]

メディア検出方法を設定します。ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

1

セ
ッ
ト
ア
ッ
プ

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードの時は、
を押します。

テストサクス <ENT>

- ②
- 
- を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③
- 
- または
- 
- で[セッテイ]を表示します。

- ④
- 
- を押します。

セッテイ :ユーザー-1

- ⑤ 設定したいユーザー番号を選択して、
- 
- を押します。

セッテイ :ユーザー-4

メディア ケンシツ<ent>

- ⑥
- 
- または
- 
- で[メディア ケンシツ]を表示します。

- ⑦
- 
- を押します。

ケンシツ :セレクト

- ⑧
- 
- /
- 
- キーでメディア検出方法を選択してください。

ケンシツ :ハバ

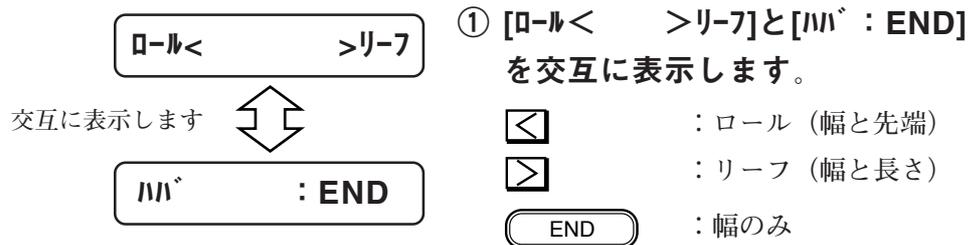
- ・ハバ : 幅のみ検出します。
- ・セレクト : メディア検出の度に、ロール、リーフ、ハバの3種類を選択するモードです。

⑨ **ENTER** を押します。

- ・電源を切っても設定は記憶しています。
- ・「ハバ」の設定をすると、メディア検出時の選択は不要となり、メディアをセットしてクランプレバーを下げるだけで、設定した検出動作を実行します。

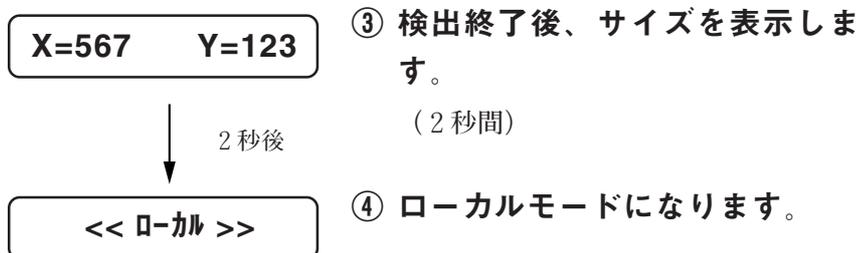
メディア検出方法

メディア取り付け後、クランプレバーを下げることにより、メディア検出を行います。



② 検出方法を該当するキーで選択してください。

プロッタは検出動作を行います。



- ・メディアケンシュツ機能で「ハバ」が設定されていると、手順①②は不要になります。メディアを取り付けてクランプレバーを下げるだけで、プロッタは検出動作を行います。

1

セ
ツ
ト
ア
ッ
プ

メディアの厚さに応じてヘッドの高さを調整

作図するメディアの厚みに応じて、ヘッドの高さを上下2段階 (ThinまたはThick) に調整できます。

これにより、紙やフィルム等の薄物から 0.5 mm厚までのターポリン等の素材に作図できます。



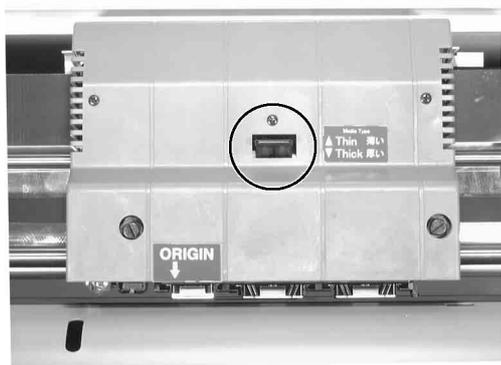
★ ヘッドの高さを調整する場合、ヘッド正面にあるネジをコインなどで緩めてから高さ調整レバーを動かしてください。

★ メディアをセットする前に、ヘッドの高さ調整をしてください。ヘッドの高さが薄いメディア用にセットしてる場合、厚いメディアをセットしてから高さ調整をするため、キャリッジを移動すると紙ジャムやヘッドを破損する原因になります。

★ 高さ調節レバーは、上か下のどちらかに確実にセットしてください。ヘッドの高さを調整しないまま、厚いメディアを使用すると作図品質が悪くなるばかりでなく、ヘッドが故障する場合があります。

★ 作図方向を[ゆくり功]に設定して使用する場合は、ヘッドの高さを調整した後に「ドット イチ ホセイ」機能の「Yオウフク」を再調整してください。

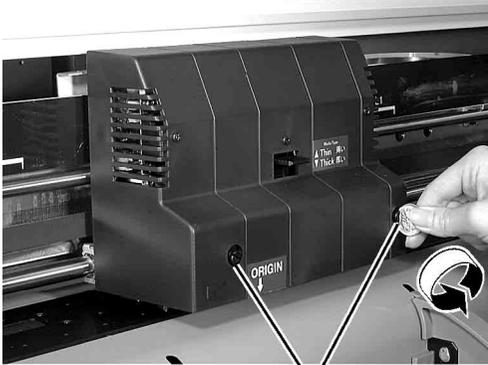
高さ調整レバーは、キャリッジの正面にあります。



メディア	高さ調整レバー
光沢白PET 光沢塩ビ マット塩ビ マット合成紙	Thin 薄い
防災クロス キャンパス ターポリン	Thick 厚い



★メディアの材質により、ヘッドにほこり等が付着しやすい場合や、インクこすれが発生する場合、レバーを下(Thick)にセットします。



ネジ

- ① ヘッド正面にある2ヶのネジをコイン等で緩めます。



- ② 高さ調整レバーをメディアに応じて調整します。



注意

★高さ調整レバーは、必ず一番上か一番下に設定してください。中間に設定すると、作図異常を起こします。



ネジ

- ③ 高さ調整レバーを押さえたまま、2ヶのネジを締めます。

高さ調整レバーを押さえないでネジを締めると、正常な位置にヘッドを固定できません。

ロール紙のセット

本装置にロール紙を取り付けます。ロール紙は、専用メディアを使用してください。専用メディア以外のロール紙をご使用になる場合は、下記のものに取り付け可能なロール紙となります。

紙管の内径 : 3 インチまたは 2 インチ

巻き径 : 150 mm 以下

幅 : 1620 mm 以下 (JV2-160)

1910 mm 以下 (JV2-180)

作図面 : 外面

重さ : 10 kg 以下

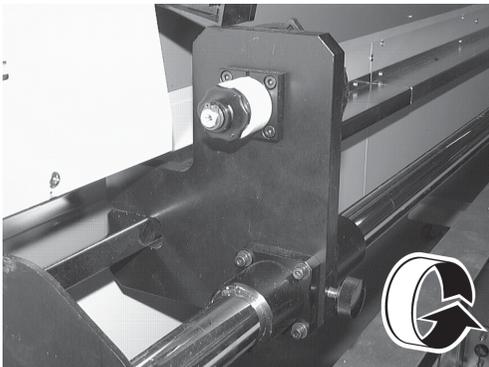
紙管との接着 : 弱粘着テープで接着しており、メディア終了後は紙管から容易にはずせること。



警告

★ ロール紙は重いので、足などに落とさないように注意してください。

★ 10kg以上のロール紙はセットしないでください。ロール紙自体が自重で曲がり、作図品質に影響します。



① 左右のロールホルダーのネジをゆるめます。

② トルクリミッタを調整します。

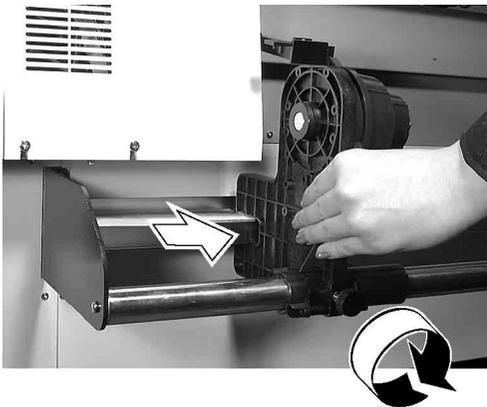
メディアの種類によって、巻き取りの強さを調整します。(⇒P1-20)

- ・時計回り：強くなる
(重いメディア使用時)
- ・反時計回り：弱くなる
(軽いメディア使用時)



注意

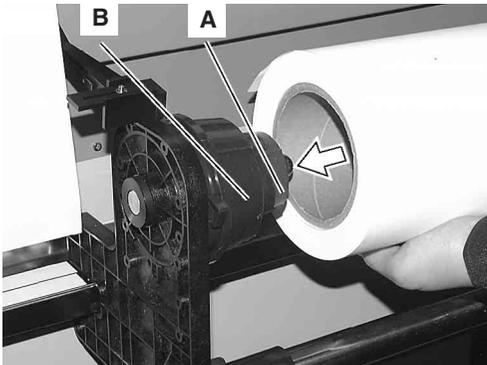
★軽いメディアの使用時に、トルクリミッタ調整を強くすると、作図画質に影響することがあります。また、重いメディアの使用時に、トルクリミッタ調整を弱くすると、メディアがたるみ、作図画質に影響することがあります。



③ 左側のロールホルダーを位置合わせします。

本体上部の「MEDIA SETTING POSITION」シールの範囲内にロール紙の左端をセットします。

ロールホルダーのネジを締めます。



④ 左側のロールホルダーにロール紙を入れます。



●ガイドレールとシャフトの上にロール紙を置くと、ロールホルダーに紙管を入れるのが容易です。

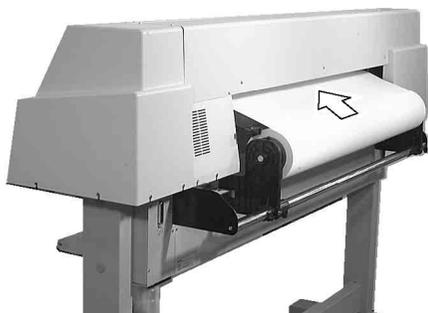
2 インチの紙管の場合は、ロールホルダーのAの位置まで紙管を入れます。

3 インチの紙管の場合は、ロールホルダーのBの位置まで紙管を入れます。

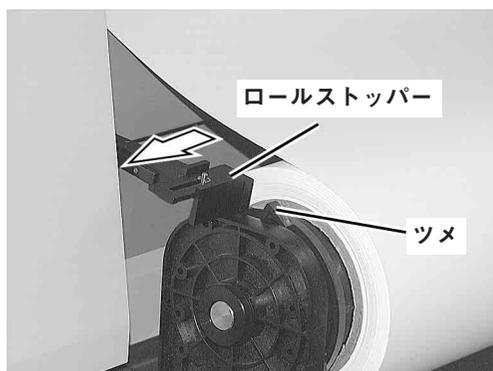


- ⑤ ロール紙の右側に、右側のロールホルダーを入れます。

ロールホルダーのネジを締めます。



- ⑥ 本装置背面からロール紙をフィードローラとピンチローラの上に挿入します。



- ⑦ ロールストッパーをロールホルダーのツメに当たるように調整します。

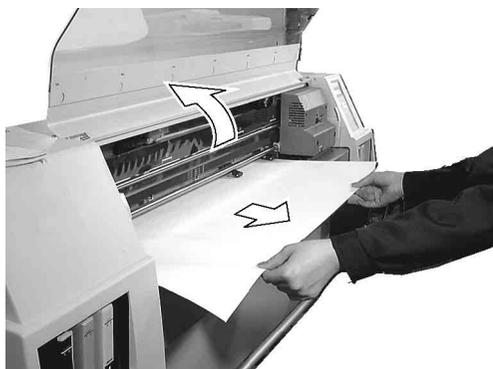


●ロールストッパーはメディアが斜めにセットされないようメディアのテンションをキープします。



注意

●手順③でロール紙左端が「MEDIA SETTING POSITION」シールの範囲内にセットされていないと、ロールホルダーが回転してしまいます。



- ⑧ フロントカバーを開け、ロール紙が止まるまでプラテン上に引き出します。

カバーを開けると、次のエラーを表示します。その後、手順⑫までは **ENTER** を押さないでください。

エラー-41 モーターアラームY



<ENT>ヲ オシテクダサイ



- ⑨ ロール紙の浮きやたわみを取り除きます。



注意

★特にやわらかいマット合成紙は、作図中に浮き上がる場合があります。左図のように両手でメディアの浮きやたわみを取り除いてください。



- ⑩ クランプレバーを下げます。

⑬ メディアの検出方法を選択します。



●巻き取り装置を使用する場合は、
キーを押します。[ハバ]のみを検出してください。



●巻き取り装置を使用しない場合は、
キーを押します。キャリッジとメディアが動き、[ハバ]と先端を検出します。

メディア検出後、メディアサイズを表示しローカルモードになります。

X=** Y=1270**



<< ローカル >>

本装置の移動

本装置を組み立て後、設置場所などへの移動方法について説明します。

移動するときは、キャストのストッパのロックを解除してください。

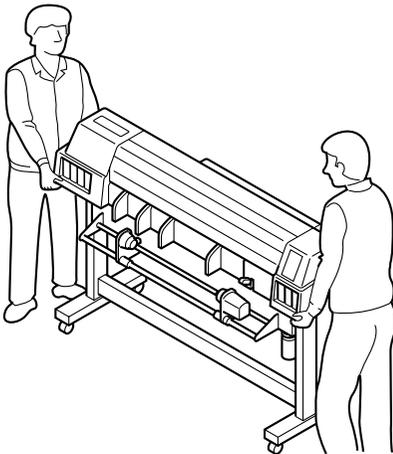


★ 移動する時は、大きな振動を与えないでください。



★ 移動後は、必ずアジャスターフットを固定してください。

移動方法



本装置を移動するときは、2人以上で図のように運んでください。

カバーを押すと割れる場合があります。

アジャスターフットの固定

脚のキャストには、アジャスターフットが付いています。

本装置を移動するときは、アジャスターフットを上げてください。

本装置を設置するときは、アジャスターフットを伸ばして固定してください。

2章

基本動作・基本機能

2章では、メディアの交換、インクカートリッジの交換などの基本動作、および通常行なう基本機能について説明します。

本章の内容

メディアの取り扱い方
フロントカバーの開閉について
メディアの交換
メニューの基本操作
作図の開始
作図を中止するには[デ-タクリア]
原点（作図原点）の設定
各種設定値のユーザー選択
作図方向と分割方式の設定[サズ ホウシ]
特色のみで出力[ア-ワークモード]
アートワークモードのテストを実行する[ア-ワークテスト]
1440dpiモードの設定 [1440dpiモード]
360dpi拡張モード [360dpi カクショウ]
用紙の送り量を補正[オクリ ホセイ]
インク乾燥時間とメディアカット時間の設定[カンソウジカン]
メディアの自動裁断[オートカット]
インクカートリッジの交換
違う種類のインクに入れ替える場合
ヘッドの保護
お手入れ

メディアの取り扱い方

メディア取り扱い上の注意

メディアの取り扱いについて、次の点にご注意ください。
メディアは、専用紙をお使いください。専用紙以外のメディアを使用してトラブルが発生した場合、責任を負いかねますのでご了承ください。

メディアの伸縮

包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。
包装を開けて30分以上、使用する場所の外気にさらす必要があります。

カールしたメディア

カールしたメディアは使用しないでください。紙づまりの原因になります。
コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。

メディアの厚さ

次の厚さのメディアを使用してください。薄すぎたり、厚すぎると紙づまりの原因になります。
また、メディアの厚みに応じて、ヘッドの高さを調整してください。
⇒P.1-40

メディア	高さ調整レバー
光沢白PET 光沢塩ビ マット塩ビ マット合成紙	Thin 薄い
防災クロス キャンバス ターポリン	Thick 厚い

使用できるメディア

本装置には、ロール紙とリーフ紙が使用できます。
使用できる用紙の種類とサイズを以下に示します。

●セット可能な用紙幅

JV2-160: 200～1620 mm (7.9inch～63.8inch)

JV2-180: 200～1910 mm (7.9inch～75.2inch)

ロール紙については「ロール紙のセット」(P.1-42)をご参照ください。



★ コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては、変色する場合があります。

★ プリントされた用紙は用紙サイズを正しく認識しない場合があります。

★ 専用紙以外の場合は、用紙終端が紙管に接着していることがあります。そのまま使用すると、故障の原因になりますので、紙管をはずしてから使用してください。

★ 透明なメディアや裏面が黒いメディアは正しく検出できない場合があります。



● 専用紙については、別紙「オプション／消耗品 カタログ」をご覧ください。

有効作図エリア

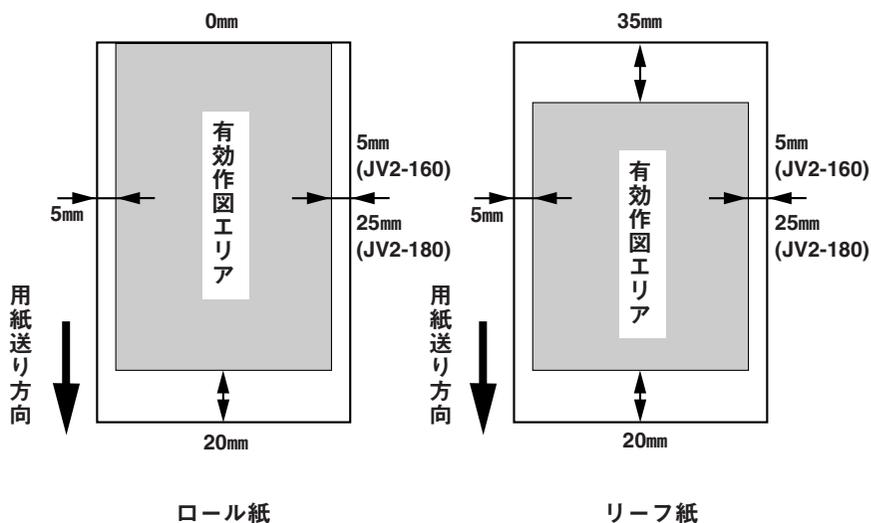
本装置は、機構上作図できないエリアがあります。このエリアを「デッドスペース」といいます。

メディアサイズからこのデッドスペースを除いたエリアが、有効作図エリアになります。

通常、次の図のようにメディアの端からJV2-160では左右に5mm、JV2-180では左に5mm、右に25mmがデッドスペースになります。

また、ロール紙では手前側は20mm、奥側は0mmになります。

リーフ紙では手前側は20mm、奥側は35mmになります。



注意

★ 2m以上の長尺出力の場合は、メディアの両サイドのスペースを多くとるようにデータを配置してください。スペースが狭いと、メディアが傾いて画像が欠ける場合があります。



● JV2-180では、右マージン機能 (⇒P.3-2) を使用して右側デッドスペースを5mmまで小さくすることができます。

フロントカバーの開閉について

作図中に、フロントカバーを開けると、安全のためキャリッジが停止し作図を終了します。

この場合、次の手順で本装置およびコンピュータを起動し直してください。

エラー41 モーターアラーム Y



<ENT>ヲ オシテクダサイ

シハ ラクオマチクダサイ

- ① 作図中にカバーを開けると、左のようなメッセージを表示します。

- ② コンピュータからのデータ送信を停止した後に、**ENTER** キーを押します。

この時、コンピュータに異常が発生した場合、コンピュータの電源を入れ直してください。

- ③ キャリッジが動き始めます。

本装置の電源を入れたときと同じ動作を行います。（初期動作）

メディアの交換

ロール紙の交換

作図中ロール紙がなくなると、ディスプレイに次のメッセージを表示します。

***メディア がアリマセン ***

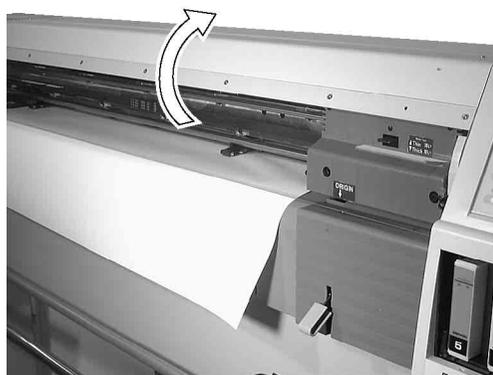


★ ロール紙の厚さが変わる場合は、ヘッドの高さ調整を行ってください。⇒P.1-40



● [データクリア]を実行すると、その時作図中であったデータ、未作図状態で受信済のデータは、全てクリアします。

次のようにして新しいロール紙と交換してください。



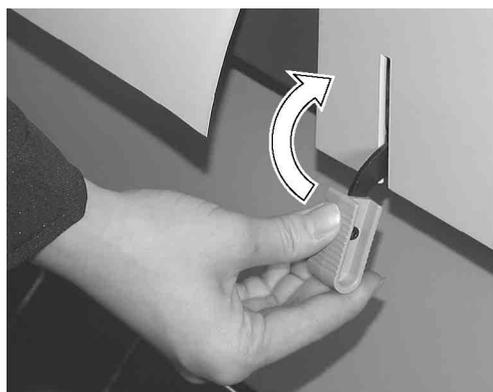
① フロントカバーを開けます。

安全のため、モータの動作が停止します。ここでは、まだ **ENTER** キーは押しません。

エラー41 モーターアラーム



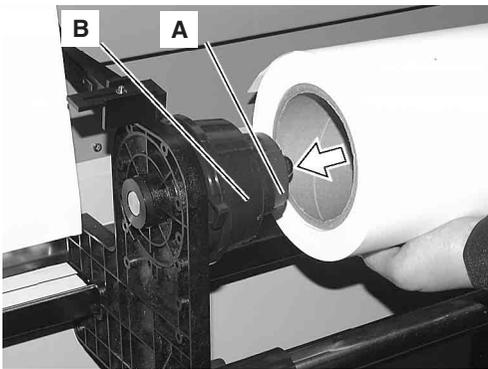
< ENT > をオシテクダサイ



② クランプレバーを上げ、メディアを外します。



- ③ 右側のロールホルダーのネジを緩め、ロールホルダーから空の紙管を外します。



- ④ 左側のロールホルダーにロール紙を入れます。



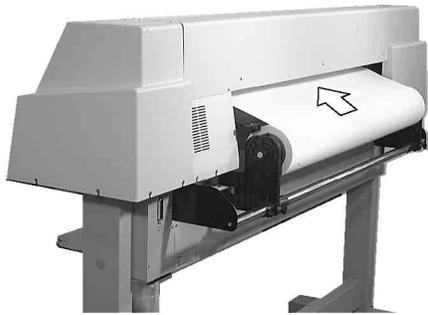
●ガイドレールとシャフトの上にロール紙を置くと、ロールホルダーに紙管を入れるのが容易になります。

2 インチの紙管の場合は、ロールホルダーのAの位置まで紙管を入れます。
3 インチの紙管の場合は、ロールホルダーのBの位置まで紙管を入れます。

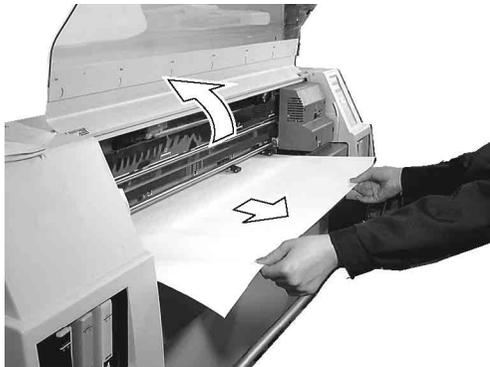


- ⑤ ロール紙の右側に、右側のロールホルダーを入れます。

ロールホルダーのネジを締めます。



- ⑥ 本装置背面からロール紙を
フィードローラとピンチローラ
の間に挿入します。



- ⑦ 本装置前面より、ロール紙が止
まるまでプラテン上に引き出し
ます。



- ⑧ ロール紙の浮きやたわみを取
り除きます。

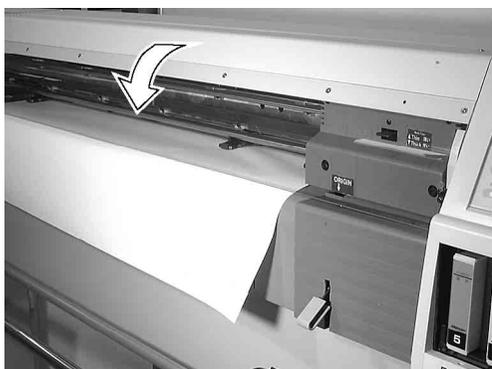


注意

★特にやわらかいマット合成紙は、作
図中に浮き上がる場合があります。
左図のように両手でメディアの浮き
やたわみを取り除いてください。



⑨ クランプレバーを下げます。



⑩ フロントカバーを閉じます。

⑪ **ENTER** キーを押します。

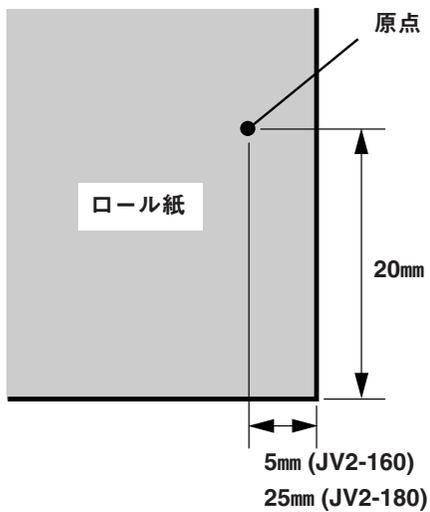
初期動作の後に、メディア検出の表示
に変わります。

□-ル< >リ-フ



交互に表示します

ハハ° : END



⑫ [ロー]を選択します。

 キーを押します。キャリッジとメディアが動き、幅と先端を検出します。



●  キーを押すと、幅のみ検出します。



注意

★巻き取り装置を使用する場合は、 キーを押して、幅のみを検出してください。

メディア検出後、サイズを表示しローカルモードになります。

X=** Y=1270**



<< ローカル >>

原点（作図原点）は、自動的に左図の位置になります。

リーフ紙のセット



★ メディアの厚さが変わる場合は、ヘッドの高さ調整を行ってください。⇒P.1-40



- ① フロントカバーを開け、リーフ紙をセットします。

ここでは、まだ **ENTER** キーは押しません。

リーフ紙は、フィードローラとピンチローラの間に入してください。

エラー-41 モーターアラーム



< ENT > を オシテタサイ



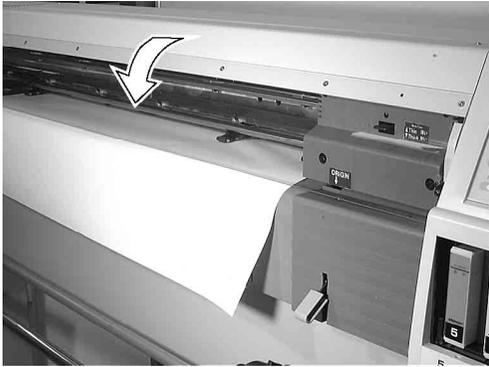
★リーフ紙の右端は、最も右側のフィードローラから15mm以上はみ出さないようにしてください。用紙検出のエラーになります。



- ② クランプレバーを下げます。

2

基本動作・基本機能



③ フロントカバーを閉じます。

④ **ENTER** キーを押します。

初期動作の後に、メディア検出の表示
に変わります。

シハ`ラク オマチクダ`サイ

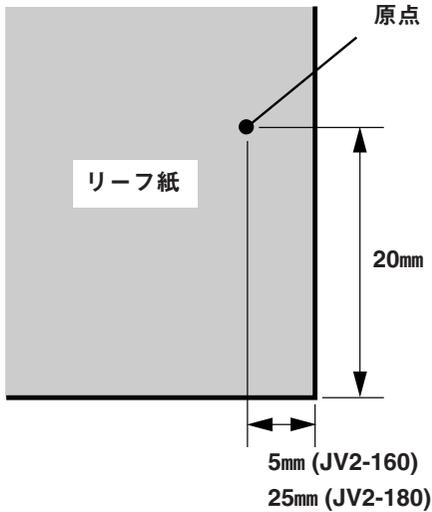


ロール< >リーフ



交互に表示します

ハハ` : END



⑤ [リーフ] を選択します。

 キーを押します。キャリッジとメディアが動き、幅と前後端を検出します。

 ● **END** キーを押すと、幅のみ検出します。

メディア検出後、サイズを表示しローカルモードになります。

X=241 Y=201



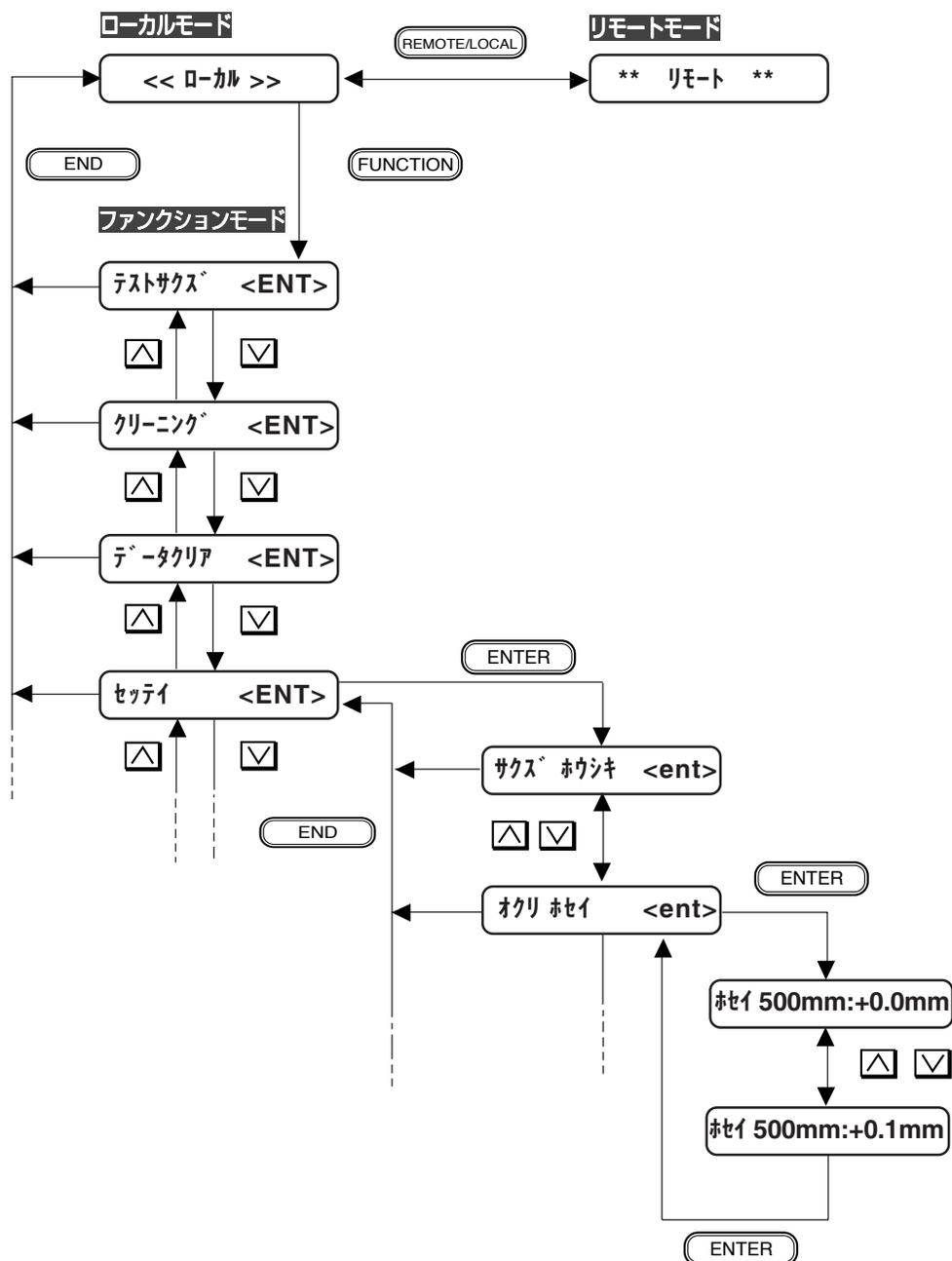
<< ローカル >>

原点（作図原点）は、自動的に左図の位置になります。

メニューの基本操作

ここでは、各モードの切り替え、メニューの操作方法について説明します。

各メニューに入るキー操作は、次の図のようになります。

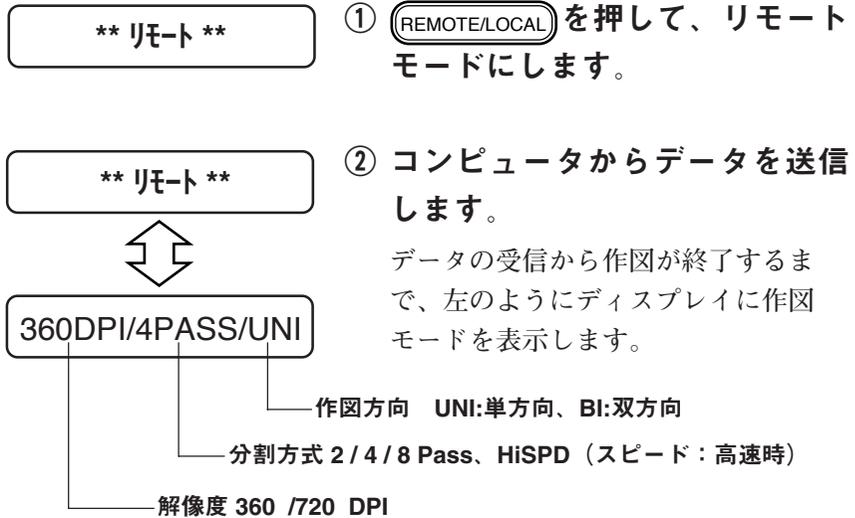


- ① ローカルモードにします。
リモートモードにしても作図しないことを確認してから、
REMOTE/LOCAL を押してローカルモードにします。
- ② ファンクションモードに入ります。
FUNCTION を押すと、ファンクションモードに入ります。
- ③ ファンクション機能を選択します。
FUNCTION を押し続けるか、**▽** または **△** を押すとファンクション機能を選択できます。
- ④ 選択したファンクション機能に入ります。
ENTER を押します。
- ⑤ パラメータを選択します。
▽ または **△** を押して、パラメータを選択します。
- ⑥ 設定を登録します。
ENTER を押します。
- ⑦ ローカルモードに戻ります。
END を数回押して、ローカルモードに戻ります。

作図の開始

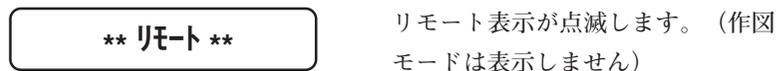
メディアをセットしリモートモードに切り換えることにより作図が可能になります。

コンピュータからのデータの受信は、ローカルモードでも可能ですが、実際に作図を行うときはリモートモードにしてください。



[リモート **] 表示が点滅したら**

何らかの原因でコンピュータからのファイルの転送中、データ受信が約30秒間停止すると、下記の表示が点滅します。



この場合、**REMOTE/LOCAL** を押して、ローカルモードにします。その後、データクリア機能を実行してください。(⇒P.2-17)

作図を中止するには[データクリア]

作図を中止する場合、受信したデータを受信バッファからクリアします。

<< ローカル >>

- ① 作図中に **REMOTE/LOCAL** を押します。

ローカルモードになり、一時停止状態になります。

テストサクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を 1 回押します。

データクリア <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[データクリア]を表示します。

<< ローカル >>

- ④ **ENTER** を押します。

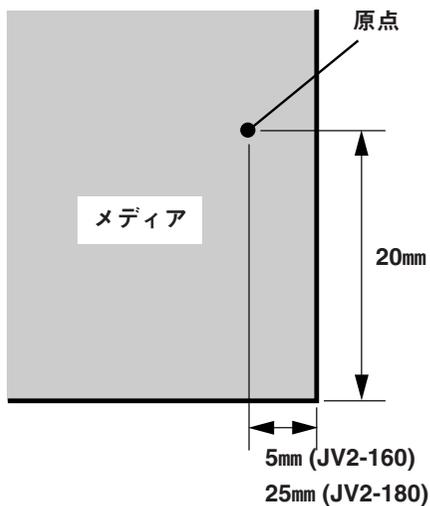
受信バッファの内容をクリアします。

2

基本動作・基本機能

原点（作図原点）の設定

セットしたメディア上に、データ上の原点を設定します。
メディアをセットしてメディアのサイズ検出を行うと、自動的に
下図の位置に原点を設定します。



しかし、ロール紙など作図エリアが広く別の場所に作図したい場合は、原点を再設定する必要があります。

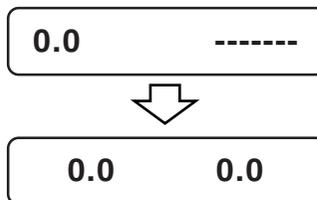
- ① メディアをセットして、ローカルモードにします。

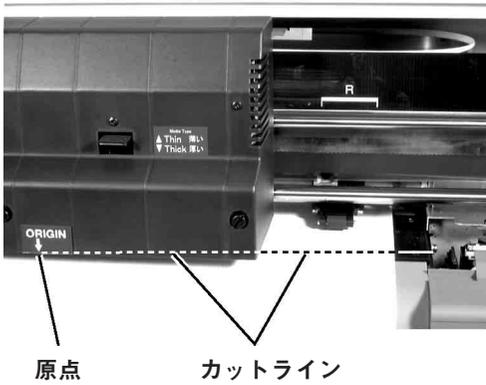
リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

- ② **◀** を2回押します。

メディアとヘッドが、現在設定してある原点位置まで移動します。





- ④ ジョグキーで、原点を設定したい場所にキャリッジを移動します。

キャリッジの「ORIGIN↓」マークと、カットラインの交差箇所が原点になります。

300.0 549.0

- ⑤ **ENTER** を押して、原点を登録します。

作図可能なエリアを表示し、ローカルモードになります。ロール紙に原点を設定すると、ディスプレイに「X=****」と表示します。

300.0 549.0



(現在の原点位置からの座標)

** ゲンテン **



X=**** Y=640



(有効作図エリア)

<< ローカル >>

各種設定値のユーザー選択

本装置では、作図方向などの下記の設定値をユーザーが1～4まで、最高4種類のユーザー設定が可能です。

各ユーザーごとに設定できる項目は、以下の通りです。

- ・作図方向(作図方向、作図速度、分割方式)
- ・アートワークモード設定
- ・1440dpiモード設定
- ・360dpi拡張モード設定
- ・メディア送り補正
- ・重ね塗り回数
- ・乾燥時間(スキャン毎、1ファイル終了時)
- ・メディアの自動切断
- ・優先順位
- ・右マージン変更値
- ・リフレッシュレベル設定
- ・メディア検出方法
- ・吸着ファン強弱
- ・ディスプレイの表示単位

■パラメータ (選択肢入力)

ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3、ユーザー4

各ユーザー内の設定値を変更したい場合

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

③ または で、[セッテイ]を表示します。

④ **ENTER** を押します。

セッテイ :ユーザー1

⑤ または で、設定したいユーザー番号を表示します。

セッテイ :ユーザー4

サクス^o ホウシキ <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。

設定機能に入ります。各項目の設定変更を行います。

セッテイ <ENT>

- ⑦ 設定が終了したら、**END** を押します。

<< ローカ >>

- ⑧ もう一度 **END** を押すと、ローカルモードに戻ります。

ユーザー番号を変更したい場合

<< ローカ >>

- ① ローカルモードを表示します。
リモートモードのときは、**REMOTE/LOCAL** を押します。

テストサクス^o <ENT>

- ② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ または で、[セッテイ]を表示します。

- ④ **ENTER** を押します。

セッテイ : ユーザ-1

- ⑤ または で、設定したいユーザー番号を表示します。

セッテイ : ユーザ-4

サクス^o ホウシキ <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。

セッテイ <ENT>

- ⑦ **END** を数回押して、ローカルモードに戻ります。

作図方向と分割方式の設定[サクス` ほうじ]

作図方向（単方向、双方向）、作図速度（標準、高速）および分割方式（8pass、4pass、2pass）を設定します。

ユーザー 1～ユーザー 4 に設定できます。

■パラメータ（選択肢入力）

- 単方向 : キャリッジが右から左へ移動するときには作図します。画質は、双方向よりきれいになります。
- 双方向 : キャリッジが左右に移動するときには作図します。速度重視のため、単方向より画質は落ちます。
- 標準 : 標準のスキャン速度で作図します。画質は、高速より良くなります。
- 高速 : スキャン速度が標準の2倍となります。速度重視のため、標準より多少画質は落ちます。
- 8pass : 1回のスキャンで作図できる幅を8分割して作図します。2passおよび4passより高品質の画質を得ることができます。ただし、作図時間はかかります。
- 4pass : 1回のスキャンで作図できる幅を4分割して作図します。作図時間と画質は、2pass と8passの中間です。
- 2pass : 1回のスキャンで作図できる幅を2分割して作図します。作図時間は短くなります。ただし、画質は粗くなるためドラフト原稿に適しています。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス` <ENT>

- ② **FUNCTION** を 1 回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[セッテイ]を表示します。

- ④ **ENTER** を押します。

セッテイ :ユーザー-1

- ⑤ **△** または **▽** で、設定したいユーザー番号を表示します。

セッテイ :ユーザー-4

サズ ホシキ <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。

設定機能に入ります。[サズ ホシキ]を表示します。

- ⑦ もう一度、**ENTER** を押します。

ホウコウ :ソウホウコウ

- ⑧ または で、作図方向を選択します。

ホウコウ :タンホウコウ

- ⑨ **ENTER** を押します。

スビ -ド :コウソク

- ⑩ または で、作図速度を選択します。

スビ -ド :ヒョウジ ムン



注意

★作図速度で高速を選択すると、分割方式は固定となります。他の分割方式は選択できません。

- ⑪ **ENTER** を押します。

ブンカツ :8pass

- ⑫ または で、分割方式を選択します。

ブンカツ :4pass

サズ ホシキ <ent>

- ⑬ **ENTER** を押して登録します。

値をキャンセルしたい場合は、**END** を押します。手順⑥の表示に戻ります。

END を数回押して、ローカルモードに移ります。

特色のみで出力[アートワークモード]

単色で作成したデータを特色のみで作図することができます。
特色とは、1番のインクステーションにセットしたインク（カラー1）です。
ユーザー1～ユーザー4に設定できます。
なお、アートワークモードは、解像度が360dpiおよび720dpiのデータに対して有効です。



★ アートワークモードと1440dpiモードが共に設定されていて、720dpiのデータがコンピュータから送られてきた場合は、1440dpiモードで作図します。

★ コンピュータから複数の色を使用した画像（フルカラー画像など）が送られてきた場合は、画像に使われている色の中で本装置が最初に受信した色を特色で作図します。

■パラメータ（選択肢入力）

- OFF : 通常の作図モードです。最大7色で作図します。
- ON : アートワークモードを設定します。カラー1のみで作図します。
- STANDARD1～3 : 通常は、こちらを使用してください。
- QUALITY1～3 : 作図品質重視のモードです。ただし、作図時間はSTANDARDの2倍になります。
- ノーマル : 通常は、こちらを使用してください。
- ウスイ : 濃度が多少薄くても、インクのにじみ等を防ぎたい場合に使用します。



★ STANDARD1～3 または QUALITY1～3 は、使用するメディアによって最適なモードを選んでください。なお、STANDARD1 または QUALITY1 を選び、かつ、コンピュータから送られてきたデータが720dpiの場合は、プロッタ内部で1440dpiに変換して作図します。このためインク消費量が増えるので、インクの濃度は「ウスイ」を選択してください。

<< ローカル >>

テストサクス <ENT>

セッテイ <ENT>

セッテイ :ユーザー-1

セッテイ :ユーザー-4

サクス ホウシキ <ent>

アートワークモード <ent>

アートワークモード :OFF

アートワークモード :ON

サクス :STANDARD1

サクス :STANDARD2

ノウト :ノーマル

ノウト :ウスイ

アートワークモード <ent>

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。
リモートモードの時は、
REMOTE/LOCAL を押します。
- ② **FUNCTION** を1回押します。
- ③ **▽** または **△** で、[セッテイ]を表示します。
- ④ **ENTER** を押します。
- ⑤ **▽** または **△** で、設定したいユーザー番号を表示します。
- ⑥ **ENTER** を押します。
設定機能に入ります。
- ⑦ **▽** または **△** で、[アートワークモード]を表示します。
- ⑧ **ENTER** を押します。
- ⑨ **▽** または **△** で、アートワークモードを [ON] にします。
- ⑩ **ENTER** を押します。



●アートワークモードを選択した場合のみ、以降の作図品質・濃度の設定を行います。

- ⑪ **▽** または **△** で、作図品質を選択します。
- ⑫ **ENTER** を押します。
- ⑬ **▽** または **△** で、濃度を選択します。
- ⑭ **ENTER** を押します。
- ⑮ **END** を数回押して、ローカルモードに移ります。

アートワークモードのテストを実行する[アートワークテスト]

アートワークモードで作図を行う前に、特色がセットされたカラー1について作図の確認を行います。

■ パラメータ（選択肢入力）

- ノズルチェック ：ノズル詰まりやゴミの付着が無いか、確認します。
- ヌリツブシ ：作図のかすれや欠けが無く、きれいに塗り潰しができるか、確認します。



★ 最初に [ノズルチェック] でノズルの状態が良好である事を確認してから、[ヌリツブシ] で画質を確認してください。

ノズルの状態を確認する[ノズルチェック]

- | | |
|-----------------|---|
| << ローカ >> | ① ローカルモードを表示します。
リモートモードの時は、
 を押します。 |
| テストサクス <ENT> | ②  を1回押します。 |
| メンテナンス <ENT> | ③  または  で、[メンテナンス] を表示します。 |
| リスト <ent> | ④  を押します。 |
| アートワークテスト <ENT> | ⑤  または  で、[アートワークテスト] を表示します。 |

パターン :ノズルチェック

⑥ **ENTER** を押します。

サクズ :ノズルチェック

⑦ または で、[ノズルチェック]を表示します。

⑧ **ENTER** を押します。

⑨ 作図を開始します。

[テストサクズ] (=⇒ P4-10)と同じパターンをカラー1のみで作図します。

[テストサクズ]と同様に横線の間隔や抜けが無いかな、確認してください。

パターン :ノズルチェック

⑩ 作図が終了すると、⑦の表示に戻ります。

パターン :リッブシ

⑪ 引き続き、塗り潰しの確認を行いたい場合は、 または で、[リッブシ]を選択します。

<< ローカル >>

⑫ 本テストを終了したい場合は、**END** を数回押して、ローカルモードに戻ります。

塗り潰しの状態を確認する [ヌリツブシ]

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードの時は、
REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

- ③ **▽** または **△** で、[メンテナンス] を表示します。

リスト <ent>

- ④ **ENTER** を押します。

- ⑤ **▽** または **△** で、[アートワークテスト] を表示します。

アートワークテスト <ENT>

- ⑥ **ENTER** を押します。

パターン :ノズルチェック

- ⑦ **▽** または **△** で、[ヌリツブシ] を表示します。

パターン :ヌリツブシ

- ⑧ **ENTER** を押します。

STD.3 / ノーマル :ent

- ⑨ アートワークモードにて現在設定されている作図品質及び濃度が表示されます。

[STD.] はSTANDARDを
[QUA.] はQUALITYを示します。
アートワークモードが選択されていない場合は、 [STD.3/ノーマル] になります。

また、本テストの前にアートワークモードで作図し、かつ、コンピュータよりアートワークモードの指定がされている場合は、その値を表示します。なお、表示されている作図品質または濃度を変更して、塗り潰しを行いたい場合は、 または で選択してください。

サイズ : スリッパシ

⑩ を押します。

作図を開始します。720dpiの解像度で100%の塗り潰しパターンをカラー1のみで作図します。塗り潰しでの画質を確認してください。

パターン : スリッパシ

⑪ 作図が終了すると、⑦の表示に戻ります。

<< ローカル >>

⑫ 本テストを終了する場合、 を数回押して、ローカルモードに戻ります。

1440dpiモードの設定 [1440dpiモード]

1440dpiの解像度で作図します。720dpiの作図データをプロッタ内部で1440dpiに変換して、作図します。各ユーザー毎に設定が可能です。

1440dpiモードでは、720dpiモードより小さなドットサイズで作図するため、インクの粒状感が目立ちにくくなります。



★ 1440dpiモードをご利用になる場合は、RIP側の対応が必要です。RIPが対応されていない1440dpiモードでは、インクが多く使用されるため作図結果が濃くなったり、インクがすばやく乾燥しないことがあります。

★ 720dpi以外（180dpi、360dpi）のデータの場合、この設定は無効になります。

■ パラメータ（選択肢入力）

OFF : コマンドで指定された分解能で作図します。

ON : 1440dpiモードで作図します。

8 pass : 1回のスキャンで作図できる幅を8分割して作図します。速度重視のモードです。

16 pass : 1回のスキャンで作図できる幅を16分割して作図します。画質重視のモードです。

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードの時は、
 を押します。

テストサクス <ENT>

②  を1回押します。

セッテイ <ENT>

③  または  で、[セッテイ] を表示します。

セッテイ : ユーザー-1

④  を押します。

セッテイ : ユーザー-4

⑤  または  で、設定したいユーザー番号を表示します。

サクス 柵シキ <ent>

1440dpiモード <ent>

1440dpiモード :OFF

1440dpiモード :ON

1440dpi :16pass

1440dpi :8pass

1440dpiモード <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。
設定機能に入ります。

- ⑦ または で、[1440dpiモード] を表示します。

- ⑧ **ENTER** を押します。

- ⑨ または で、[ON]/[OFF] を選択します。

- ⑩ **ENTER** を押します。



注意

★ [ON] を選択した場合のみ、分割方式の設定を行います。

- ⑪ または で、[ON] を選択した場合、作図時の分割方式を選択します。

- ⑫ **ENTER** を押して登録します。

- ⑬ **END** を数回押して、ローカルモードに移ります。

値をキャンセルしたい場合は、**END** を押します。手順⑦の表示に戻ります。



注意

★1440dpiモードについて

ON： この場合、分割方式以外の作図方向・速度は固定となり、[サクス柵シキ] での設定またはコンピュータ側からの指定による作図方向は無効となります。

OFF： この場合、作図方向・速度・分割方式は [サクス柵シキ] での設定またはコンピュータ側からの指定による作図方向となります。

360dpi拡張モード [360dpi カチヨウ]

メディアによって360dpiの作図データでは濃度が不足する場合があります。

本機能をONすることにより、濃度を上げることができます。

本機能は、360dpiの作図データをプロッタ内部で720dpiに拡張して作図します。

作図方向、作図速度、そして分割方式の設定値は、操作パネルでの設定またはホストコンピュータからの指定が有効になります。

ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

■ パラメータ（選択肢入力）

OFF : コマンドで指定された解像度で作図します。

ON : 360dpiの作図データを720dpiに拡張して作図します。

- | | |
|------------------|---|
| << ローカル >> | ① ローカルモードを表示します。
リモートモードの時は、
 を押します。 |
| テストサクス <ENT> | ②  を1回押します。 |
| セッテイ <ENT> | ③  または  で、[セッテイ]を表示します。 |
| セッテイ : ユーザ-1 | ④  を押します。 |
| セッテイ : ユーザ-4 | ⑤  または  で、設定したいユーザー番号を表示します。 |
| サクス かつヨウ <ent> | ⑥  を押します。
設定機能に入ります。 |
| 360dpiカチヨウ <ent> | ⑦  または  で、[360dpiカチヨウ]を表示します。 |

360 → 720dpi :OFF

⑧ **ENTER** を押します。

360 → 720dpi :ON

⑨ **▽** または **△** で、[ON]にします。

360dpiカチヨウ <ent>

⑩ **ENTER** を押します。

値をキャンセルしたい場合は、**END** を押します。手順⑦の表示に戻ります。

<< ロ-カ >>

⑪ **END** を数回押して、ローカルモードに移ります。

2

基本動作・基本機能

用紙の送り量を補正[オクリ 紙]

本装置は、メディアを送り出しながら作図します。よって、メディアの種類によりメディアの送り出し量が変わってきます。メディアの送り出し量を一定に保つために、送り出し量を補正します。補正值が大きすぎると、白いスジが発生します。作図しながら、適切な値に設定してください。
ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

■パラメータ（数値入力）

長さ500mm

に対して、-10mm～+10mm（0.5mmステップ）

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[セッテイ]を表示します。

- ④ **ENTER** を押します。

セッテイ :1-ザ-1

- ⑤ **△** または **▽** で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ :1-ザ-2

サクス ホウシキ <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。

設定機能に入ります。

オクリ 紙 <ent>

- ⑦ **△** または **▽** で、[オクリ 紙]を表示します。

- ⑧ **ENTER** を押します。

紙 500mm:+0.0mm

紙 500mm:+0.5mm

オクリ 紙 <ent>

- ⑨ または で、補正量を選択します。

- ⑩ を押して登録します。
値をキャンセルしたい場合は、
 を押します。手順⑦の表示に戻ります。

を数回押して、ローカルモードに移ります。

インク乾燥時間とメディアカット時間の設定[カンソウガン]

インクの乾燥時間と1ファイル作図終了後からメディアのカットを開始するまでの時間を設定します。

設定時間は、図面の印字密度およびメディアの種類に応じて設定してください。

ユーザー1～ユーザー4に設定ができます。

設定項目は、次の2項目です。

スキャン : スキャン毎の乾燥時間を設定します。

オートカット : 1ファイル作図終了後、メディアのカット(オートカット機能)を開始するまでの時間を設定します。

■パラメータ (数値入力)

スキャン : 0～9.9(sec) 0.1秒単位

オートカット : 0～999(sec) 1秒単位

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[セッテイ]を表示します。

- ④ **ENTER** を押します。

セッテイ : ユーザー-1

- ⑤ **△** または **▽** で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ : ユーザー-2

サクス ホウシキ <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。

設定機能に入ります。

- ⑦ または で、[カンソウジカ]を表示します。
- ⑧ を押します。
- ⑨ または で、1 スキャンごとの乾燥時間を選択します。
- ⑩ を押します。
- ⑪ または で、オートカットするまでの時間を選択します。
- ⑫ を押して登録します。
 値をキャンセルしたい場合は、 を押します。手順⑦の表示に戻ります。
- を数回押して、ローカルモードに移ります。

カンソウジカ <ent>

スキャン : 0.0s

スキャン : 1.0s

オートカット : 0s

オートカット : 60s

カンソウジカ <ent>

メディアの自動裁断[オートカット]

1 ファイル作図後、自動でメディアをカットするか設定します。
ユーザー1~ユーザー4に設定ができます。

■パラメータ (選択肢入力)

ON : 1 ファイルごとにカットを実行します。
OFF : カットせずに、続けて次のファイルを作図します。

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、
REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

② **FUNCTION** を 1 回押します。

セッテイ <ENT>

③ **△** または **▽** で、[セッテイ] を表示
します。

④ **ENTER** を押します。

セッテイ : ユーザ -1

⑤ **△** または **▽** で、設定したい
ユーザー番号を選択します。

セッテイ : ユーザ -4

サクス ホウシキ <ent>

⑥ **ENTER** を押します。
設定機能に入ります。

オートカット <ent>

⑦ **△** または **▽** で、[オートカット] を表
示します。

⑧ **ENTER** を押します。

オートカット :OFF

オートカット :ON

⑨ または で、オートカットの設定項目を選択します。

⑩ を押して登録します。
値をキャンセルしたい場合は、
 を押します。手順⑦の表示に戻ります。

を数回押して、ローカルモードに移ります。

インクカートリッジの交換

インクステーションには、1番から7番までの番号があり、次のようにインクの色が決まっています。インクが少なくなる、または無くなるとディスプレイにメッセージと共に該当するインクカートリッジのカラー番号を表示します。

ステーション番号	1	2	3	4	5	6	7
カラー番号	1	2	3	4	5	6	7
色	特色	ブラック	シアン	グリーン または ライトシアン	マゼンタ	オレンジ または ライトマゼンタ	イエロー



★インクの組み合わせ（グリーンとオレンジ、またはライトシアンとライトマゼンタ）は、お客様のご要望により工場出荷時にどちらか1つに設定します。インクの組み合わせを変更する際は、販売店または弊社営業所までご連絡ください。お客様でのインクの組み合わせの変更は行わないでください。

ローカルモードでインク残量が少なくなった場合

各インクカートリッジ内のインクが残り少なくなると、インクカートリッジの番号をディスプレイに表示します。この場合、**REMOTE/LOCAL** キーを押すと1ファイルごと作図できますが、早めにインクカートリッジを交換してください。

！ インクニアット



交互に表示します

[1234567]

インクが全く無くなると、次のように表示します。速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。

！ インクエンド



交互に表示します

[1234567]

作図中にインク残量が少なくなった場合

作図中に各インクカートリッジ内のインクが残り少なくなると、メッセージをディスプレイに表示します。この場合、**REMOTE/LOCAL** キーを押すと1ファイルごと作図できますが、早めにインクカートリッジを交換してください。

**** リモート ** [インク]**

インクが全く無くなると、次のように表示し、作図が一時停止します。速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。

! インクエンド



交互に表示します

[1234567]



- 作図品質および長期にわたる信頼性を得るには、純正のインクカートリッジを使用してください。純正以外のインクカートリッジまたはインクを使用しトラブルが発生した場合、責任を負いかねますのでご了承ください。

インクカートリッジの交換方法



★ インクステーションの奥へ指を入れしないでください。インクカートリッジに刺さる針でケガする原因になります。

- ① インクが少なくなる、またはインクが無くなると、対象となるカラー番号と共にメッセージを表示します。

ローカルモードでインク残量が少なくなったとき

！インクニアインド



交互に表示します

[1234567]

ローカルモードでインクが無くなったとき

！インクインド



交互に表示します

[1234567]

リモートモードでインク残量が少なくなったとき

**** リモート ** [インク]**

リモートモードでインクが無くなったとき

！インクインド



交互に表示します

[1234567]

- ② リモートモードのときは、**REMOTE/LOCAL** を押してローカルモードにします。

** リモート ** [インク]



!インクニアウト

- ③ 古いインクカートリッジを引き抜きます。

インクカートリッジを抜くと、次のようなメッセージを表示します。

!カートリッジ



交互に表示します

[1234567]



★インクカートリッジは分解しないでください。



警告

★インクには毒性はありませんが、インクに直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまったときは、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入ったときは、大量の水で洗い、医師に相談してください。



- ④ 新しいインクカートリッジをインクステーションに差し込みます。

インクカートリッジ底の2個の突起をインクステーションのレールに合わせて差し込みます。インクカートリッジを正規の位置まで差し込むとブザーが鳴ります。

各インクカートリッジは、該当するインクステーションに差し込んでください。

<< 戻る >>

- ⑤ 表示が変わります。

作図中の場合は、**REMOTE/LOCAL** キーを押します。作図を開始します。

違う種類のインクに入れ替える場合

特色インクを違う色の特色インクに入れ替える場合に、以下の手順が必要になります。

- 1) インクカートリッジを外して、使用中のインクを排出する。
- 2) 入れ替えるインクのカートリッジを取り付ける。
- 3) 取り付けたカートリッジからインクを充てんする。

インクを排出する[インクハイシュツ]

- | | |
|----------------|---|
| << ロー加 >> | ① ローカルモードを表示します。
リモートモードの時は、
 を押します。 |
| テストサクス <ENT> | ②  を1回押します。 |
| メンテナンス <ENT> | ③  または  で、[メンテナンス]を表示します。 |
| リスト <ent> | ④  を押します。 |
| インクハイシュツ <ent> | ⑤  または  で、[インクハイシュツ]を表示します。 |
| ハイシュツ :カラー-1 | ⑥ カラー1が選択されていることを確認してから  を押します。 |

**** インクハイシュツ ****



<< ローカル >>

⑦ 再度、**ENTER**を押します。

インク排出終了後、ローカルモードに戻ります。

インクを充てんする[インクジェネ]

インクを排出した後、インクステーションにインクカートリッジを差し込むと、自動的にインク充填を行います。よって、通常この機能は使用しません。

ヘッドの保護

本装置には、ヘッドを良好な状態に保ち、最良の作図品質を得るために、キャッピング機能とクリーニング機能があります。

キャッピング

キャッピングとは、ヘッドの乾燥を防ぐために自動でヘッドにキャップをする機能です。キャッピングは、次のタイミングで行われます。

- 作図終了後、数秒間経過したとき
- 一時停止状態になったとき

ヘッドがキャッピングステーションにあれば、キャッピングしています。



★ 作図中や作図終了直後に電源スイッチをオフにすると、キャッピングされないことがあります。キャッピングされていない状態で長時間放置すると作図不良の原因になりますので、ヘッドがキャッピングされていることを確認してから電源スイッチをオフにしてください。もし、キャッピングされていないまま電源スイッチをオフにしてしまった場合は、再度電源スイッチをオンにしてください。しばらくすると自動的にキャッピングおよびクリーニングが行われますので、それを確認したあとに電源スイッチをオフにしてください。

★ 作図中にフロントカバーを開くとキャッピングされない状態でヘッドが停止します。この状態で長時間放置しないでください。

お手入れ

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。



★ 本装置を、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。



★ 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。



★ お手入れは、電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。



★ ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。



★ 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プロッタメカニズムが故障する恐れがあります。

紙粉の除去

本装置は、ロール紙をカットするため、ヘッドの移動部分やシートセンサーの表面、およびカッターラインの溝に紙粉がたまります。この場合、柔らかい毛のハケで取り除いてください。

外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、水または水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に含ませ、よくしぼってから拭き取ってください。

3 章

応用機能

3 章では、便利な機能について説明します。

本章の内容

デッドスペースの変更[ミギマージン].....	3-2
重ね塗りの設定[かぶり].....	3-4
ディスプレイの表示単位の設定[ミリ/インチ]	3-6
ディスプレイの表示言語の設定[DISPLAY]	3-8
同一データの再作図[コピー].....	3-9
手動でメディアをカットするには[メディアカット].....	3-11
設定値の優先順位の設定[エスケン ジュニイ].....	3-12
メディアの吸着力の設定[キョウチャク].....	3-14
設定値の初期化[セッテイリセット].....	3-16

デッドスペースの変更[ミギマージン]

本装置のメディア右端の余白（マージン）は、JV2-160 が通常5mm、JV2-180 が25mm となっています。この値をベースとして、余白分を変更することができます。
ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

■パラメータ（選択肢入力）mm単位

0～99 mm(JV2-160)

-20～99 mm(JV2-180)



●JV2-180では、-20mmに設定すると右端の余白は5mm（最小値）になり、+99mmに設定すると、右端の余白は124mm（最大値）になります。

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードの時は、
REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

③ **▽** または **△** で、[セッテイ]を表示します。

④ **ENTER** を押します。

セッテイ :ユーザー-1

⑤ **▽** または **△** で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ :ユーザー-4

⑥ **ENTER** を押します。

サクス ほうジキ <ent>

⑦ **▽** または **△** で、[ミギマージン]を表示します。

ミギマージン <ent>

⑧ **ENTER** を押します。

マージン :+0 mm

マージン :+10 mm

ミギマージン <ent>

<< ローカル >>

- ⑨ または で、増やす余白分を設定します。



注意

★ [ミギマージン]を+10mmに設定すると、右端デッドスペースは15mm (JV2-160)、35mm (JV2-180)となります。

- ⑩ を押して登録します。

値をキャンセルしたい場合は、

を押します。手順⑦の表示に戻ります。

- ⑪ を数回押して、ローカルモードに移ります。

重ね塗りの設定[かネリ]

キャンバスなどのインクが発色しにくいメディアに作図する場合、インクの重ね塗りを実行します。
ユーザー1～ユーザー4に設定できます。



★ 防災クロスでは、重ね塗りを使用しないでください。重ね塗りを行うと、インクでメディアが伸縮し、波打ち状態になります。そのためインクヘッドがメディアをこすりメディアを汚したり、紙詰まりによりヘッドを破損する原因になります。

■パラメータ（数値入力）

1、2、3、4、5、6、7、8、9（回）

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

 を押します。

テストサクス <ENT>

②  を1回押します。

セッテイ <ENT>

③  または  で、[セッテイ]を表示します。

④  を押します。

セッテイ :ユーザー-1

⑤  または  で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ :ユーザー-4

サクス ホウシキ <ent>

⑥  を押します。

設定機能に入ります。

かネリ <ent>

⑦  または  で、[かネリ]を表示します。

⑧  を押します。

かさねり :1か1

かさねり :3か1

- ⑨ または で、重ね塗り回数を
選択します。

- ⑩ を押して登録します。

値をキャンセルしたい場合は、

を押します。手順⑦の表
示に戻ります。

を数回押して、ローカル
モードに移ります。

ディスプレイの表示単位の設定[ミリ/インチ]

ディスプレイに表示する長さの単位を設定します。
原点を設定するとき、用紙検出をしたときなどのX方向、Y方向の長さ等が対象です。
ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

■パラメータ（選択肢入力）

ミリ : ミリメートルで表示

インチ : インチで表示

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[セッテイ]を表示します。

- ④ **ENTER** を押します。

セッテイ : ユーザー-1

- ⑤ **▽** または **△** で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ : ユーザー-4

サクス ホウシキ <ent>

- ⑥ **ENTER** を押します。

設定機能に入ります。

ミリ/インチ <ent>

- ⑦ **△** または **▽** で、[ミリ/インチ]を表示します。

- ⑧ **ENTER** を押します。

ミリ/インチ :ミリ

ミリ/インチ :インチ

- ⑨ または で、表示単位を選択します。

- ⑩ を押します。

値をキャンセルしたい場合は、

を押します。手順⑦の表示に戻ります。

ディスプレイの表示言語の設定[DISPLAY]

ディスプレイに表示する言語を設定します。

■パラメータ（選択肢入力）

Japanese、English、German、French、Spanish、Italian、
Portuguese

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

を押します。

テストサクス <ENT>

- ② を1回押します。

DISPLAY <ENT>

- ③ または で、[DISPLAY]を
表示します。

ヒョウジ :Japanese

- ④ を押します。

ヒョウジ :English

- ⑤ または で、表示言語を選
択します。

- ⑥ を押して登録します。
手順③の表示に戻ります。

値をキャンセルしたい場合は、

を押します。

同一データの再作図[コビ°-]



★ 本機能は、別売の増設メモリを装着しないと機能しません。増設メモリについては、販売店または弊社営業所までお問い合わせください。

最後に受信したデータをローカルモードで再度、作図することができます。これにより、同じデータを何度もコンピュータから送信する必要がなくなります。



★ 本装置の電源をオンにしてから、一度もデータを受信していない場合は、本機能は使用できません。

★ 受信バッファ（増設したメモリ）の容量より大きなデータは、コピーはできません。

■パラメータ（数値入力）

1 ~999(枚)

① リモートモードで、コピーしたいデータを作図します。

<< ローカル >>

② **REMOTE/LOCAL** を押して、ローカルモードにします。

③ コピーしたい位置に原点を設定します。（⇒P.2-18）

テストサクス <ENT>

④ **FUNCTION** を 1 回押します。

コビ°- <ENT>

⑤ **△** または **▽** で、[コビ°-] を表示します。

コビ°- : 171

⑥ **ENTER** を押します。

コピー : 371

- ⑦  または  で、コピー枚数を設定します。

* 1/3 コピー *

- ⑧  を押します。

コピーを実行しながら、コピー枚数を表示します。

コピー終了後、リモートモードになります。

コピーしない場合は、 を押します。手順⑤の表示に戻ります。

手動でメディアをカットするには[メディアカット]

ローカルモードのとき、ジョグキーでキャリッジやメディアを移動している最中にメディアをカットすることができます。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

338.0 -----

- ② または で、切り離したい位置にメディアをフィードします。

メディアカット <ENT>

- ③ **FUNCTION** を 1 回押します。

ディスプレイ表示が変わります。

キャンセルしたい場合は **END** を押します。手順①の表示に戻ります。

** メディア カット **



0.0 -----

- ④ **ENTER** を押すと、メディアをカットします。

<< ローカル >>

- ⑤ カット終了後、ローカルモードになります。

設定値の優先順位の設定[ユセシ ジュンイ]

次の5つの機能の設定値を個々に操作パネルで設定した値を優先にするか、コンピュータ側で設定した値を優先にするか設定します。ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

- ・作図方式 (⇒P.2-22)
- ・送り補正 (⇒P.2-34)
- ・重ね塗り (⇒P.3-4)
- ・乾燥時間 (⇒P.2-36)
- ・オートカット (⇒P.2-38)

■パラメータ (選択肢入力)

- ホスト : コンピュータ側で設定した値が有効になります。コンピュータ側で設定しない場合は、操作パネルで設定した値が有効になります。
- パネル : 操作パネルで設定した値が有効になります。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、
 を押します。

テストサクス <ENT>

- ②  を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③  または  で、[セッテイ]を表示します。

- ④  を押します。

セッテイ :ユーザー1

- ⑤  または  で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ :ユーザー4

サクス ホウシキ <ent>

- ⑥  を押します。

設定機能に入ります。

- ワーク ジョイン <ent>**
- ⑦ または で、[ワーク ジョイン] を表示します。
- サクス ホウシキ :ホスト**
- ⑧ を押します。
 または で、作図方式の優先先を選択します。
- オクリ ホセイ :ホスト**
- ⑨ を押します。
 または で、送り補正の優先先を選択します。
- カサネリ :ホスト**
- ⑩ を押します。
 または で、重ね塗りの優先先を選択します。
- カンソウジ カン :ホスト**
- ⑪ を押します。
 または で、乾燥時間の優先先を選択します。
- オートカット :ホスト**
- ⑫ を押します。
 または で、オートカットの優先先を選択します。
- << ローカル >>**
- ⑬ を押します。
 値を登録します。
 を数回押して、ローカルモードに移ります。

メディアの吸着力の設定[キウチャク]

メディアの吸着力を設定します。

防炎クロスを使用するときは、吸着力を[ヨワイ]に設定してください。[ヒョウジュン]で使用すると、吸着穴からインクを吸い取ってしまい、画質に縦縞が発生する原因になります。

ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

■パラメータ（選択肢入力）

ヒョウジュン : 通常の吸着力でメディアを吸着します。

ヨワイ : メディアの吸着力を弱めます。

吸着力を[ヨワイ]に設定した場合、作図時のみ対象になります。用紙サイズ検出時、原点設定時およびメディアのオートカット時は、[ヒョウジュン]になります。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

を押します。

テストサクス <ENT>

- ② を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ または で、[セッテイ]を表示します。

- ④ を押します。

セッテイ : ユーザー-1

- ⑤ または で、設定したいユーザー番号を選択します。

セッテイ : ユーザー-4

サクス ホウシキ <ent>

- ⑥ を押します。

設定機能に入ります。

キウチャク <ent>

- ⑦ または で、[キウチャク]を表示します。

キューチャク :ヒヨウジ ムン

- ⑧ **ENTER** を押します。
設定値の変更が可能になります。

キューチャク :ヨワイ

- ⑨ **△** または **▽** で、吸着力を選択
します。

<< ローカル >>

- ⑩ **ENTER** を押します。
値を登録します。
END を数回押して、ローカル
モードに移ります。

設定値の初期化[セッテイリセット]

各設定項目を一括して、初期値に戻します。初期化を行うと、各設定項目は以下の値となります。

・作図方式 (作図方向、作図速度、 分割方式)	: 単方向、標準、4pass
・アートワークモード	: OFF
・1440dpiモード	: OFF
・360dpi拡張モード	: OFF
・メディア送り補正	: 補正なし (0mm)
・重ね塗り回数	: 重ね塗りをなし
・乾燥時間 (スキャン毎、 1ファイル終了時)	: スキャン毎、オートカット前、 共に乾燥時間なし (0秒)
・オートカットON/OFF	: OFF
・優先順位	: ホスト
・右マージン変更値	: +0mm
・リフレッシュレベル設定	: レベル3
・メディア検出方法	: セレクト
・吸着ファン強弱	: 標準
・表示単位の選択	: ミリ

ユーザー1～ユーザー4に設定できます。

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードの時は、
REMOTE/LOCAL を押します。

テストサクス <ENT>

② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

③ または で、[セッテイ]を表示
します。

④ **ENTER** を押します。

セッテイ :ユーザー1

⑤ または で、初期化したい
ユーザー番号を表示します。

セッテイ :ユーザー4

- サクス ホウシキ <ent>
- セッテイ リセット <ent>
- ユーザー-4 リセット: ent
- << ローカル >>
- ⑥ **ENTER** を押します。
- ⑦ **▽** または **△** で、[セッテイ リセット] を表示します。
- ⑧ 初期化を実行するユーザー番号を表示します。
- 初期化を実行する場合は、**ENTER** を押します。
各設定項目が初期値となります。
初期化を実行しない場合は、**END** を押します。手順⑦の表示に戻ります。
- ⑨ **END** を数回押して、ローカルモードに移ります。

4章

メンテナンス機能

4章では、画質が悪化した場合の対処や確認するための機能および廃インクタンク・裁断用のカッター刃の交換方法について説明します。

本章の内容

各色のヘッドのズレ補正[ドットずれ]	4-2
ヘッドのリフレッシュレベルの設定[リフレッシュ]	4-6
ヘッドのクリーニング[クリーニング]	4-8
テスト作図の実行[テストサク]	4-10
ワイパのクリーニング[ステーションメンテ]	4-12
ワイパ交換とキャップのクリーニング[ステーションメンテ]	4-15
ダンプの実行[ダンプ]	4-20
設定状態の作図[リスト]	4-21
廃インクタンクの交換方法	4-22
裁断用カッター刃の交換	4-23

各色のヘッドのズレ補正[ドット印刷]



注意

★ 工場出荷時は、機械ごとに微調整しています。作図結果の各色がずれて、輪郭部に単色の輪郭線が作図されてしまう等の現象が発生する場合のみ、本調整を行ってください。

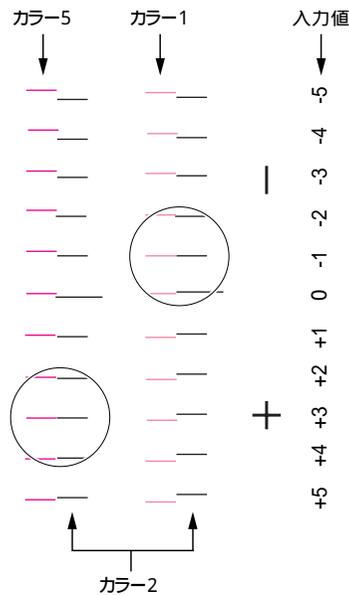
★ カラー1（特色）のインクカートリッジをセットしていない場合は、カラー1を使ったパターンは作図しません。

各色のヘッドのズレをX方向（水平方向）とY方向（垂直方向）の両方で補正します。

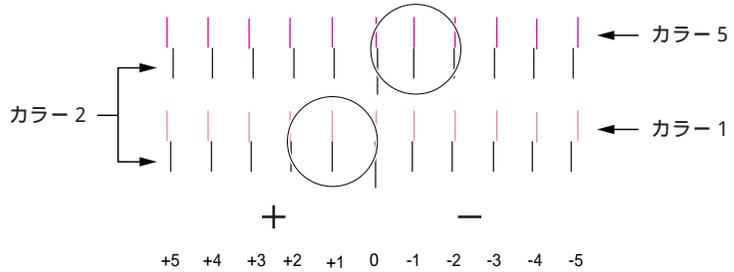
X方向のパターン、Y方向の往路そして復路のパターンでは、各ヘッド間のズレを調べるためにカラー2を基準にカラー1とカラー5で作図します。

各基準色のパターンが、X方向では水平に、Y方向では垂直に揃うパターンを-5 から+5 の間で選び、その値を入力します。

X方向のパターン

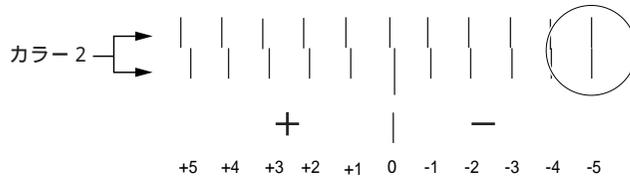


Y方向の往路・復路パターン



Y方向パターンの往復ではカラー 2（ブラック）で往復作図し、垂直に揃うパターンを-5 から+5 の間で選び、その値を入力します。

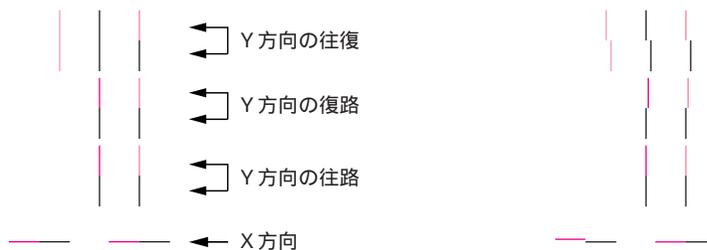
Y方向の往復パターン



本機能のテスト作図は、ヘッドのズレを確認するため、各色のヘッドでチェックパターンを作図します。

正常なパターン

ズれているパターン



<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

 を押します。

テスト サクス <ENT>

- ②  を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

- ③  または  で、[メンテナンス]を表示します。

リスト <ent>

- ④  を押します。

ドット 仔 赤イ <ent>

- ⑤  または  で、[ドット 仔 赤イ]を表示します。

赤イ: X 赤コウ

- ⑥  を押します。

赤イ: Y フクロ

- ⑦  または  で、補正方向を選択します。

左の図は、[Y フクロ]を選択した場合です。

カラー 1-2 = 0

- ⑧  を押します。

パターン図を作図します。



-  を押すと、作図せずにパターン番号を入力できます。

カラー1のインクカートリッジをセットしていない場合は、手順⑩に移ります。

カラー 1-2 = -2

カラー 2-5 = 0

ホセイ:テスト サクス

ホセイ:テスト サクス



<< ローカル >>

- ⑨ カラー1-2間の垂直方向に揃ったパターン番号をさがします。
- ⑩ または で、パターン番号を入力します。
- ⑪ を押します。
同様に、カラー 2-5 間のパターン番号を入力します。
- ⑫ または で、[ホセイ:テスト サクス]を選択します。
入力した補正值が正しいか、テスト作図をして確認します。
- ⑬ テスト作図が異常の場合は、手順⑥から行ってください。
- ⑭ テスト作図が正常な場合は、 を数回押してローカルモードに戻ります。

ヘッドのリフレッシュレベルの設定[リフレッシュ]

ホコリが多い場所や、湿度が低い場所で本装置を使用すると、ヘッドノズルのインクが固まりやすくなります。作図中、ヘッドをリフレッシュさせることにより、インクの固まりを防止します。このときのヘッドを自動でリフレッシュさせるためのレベルを設定します。

■パラメータ（数値入力）

レベル0 : リフレッシュの回数が少ない
レベル1 : リフレッシュの回数が普通
レベル2 : リフレッシュの回数がやや多い
レベル3 : リフレッシュの回数が多い

ユーザー1～ユーザー4に設定できます。



注意

★長尺出力および連続出力を行う場合は、作図を安定させるためにリフレッシュレベルをレベル3に設定してください。ただしインクの消費量が増えます。また、作図時間が多少長くなります。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テスト サクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を1回押します。

セッテイ <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[セッテイ]を表示します。

セッテイ :ユーザー1

- ④ **ENTER** を押します。

ユーザー番号を選択します。

セッテイ :ユーザー2

- ⑤ **△** または **▽** で、設定したいユーザー番号を選択します。

- ⑥ **サクス ホウシキ <ent>** **ENTER** を押します。
- ⑦ **リフレッシュ <ent>** **△** または **▽** で、[リフレッシュ] を表示します。
- ⑧ **リフレッシュ :レベル1** **ENTER** を押します。
リフレッシュレベルを表示します。
- ⑨ **リフレッシュ :レベル3** **△** または **▽** で、リフレッシュレベルを選択します。
- ⑩ **ENTER** を押して登録します。
値をキャンセルしたい場合は、**END** を押します。手順⑦の表示に戻ります。
END を数回押して、ローカルモードに移ります。

ヘッドのクリーニング[クリーニング]

ヘッドクリーニングは、作図がかすれたり、欠けたりする画質不良が出た場合に行います。以下の手順に従ってヘッドクリーニングを行ってください。

また、ヘッドクリーニングを実行したら、テスト作図機能を実行して、かすれや欠けが無いか確認してください。

クリーニング機能を数回実行しても改善しない場合は、弊社までご連絡ください。

■パラメータ（選択肢入力）

対象カラー

- スベテ : 全てのカラーを対象にクリーニング
- カラー1 : カラー1のヘッドをクリーニング
- カラー2、3、4 : カラー2、3、4のヘッドをクリーニング
- カラー5、6、7 : カラー5、6、7のヘッドをクリーニング

クリーニングタイプ

- ソフト : 作図がかすれた時に使用します。（クリーニング時間が短い）
- ノーマル : 作図欠けがある時に使用します。（クリーニング時間が長く、インク消費量が多い）

<< ローカル >>

① ローカルモードにします。

リモートモードのときは、**REMOTE/LOCAL**を押して、ローカルモードにしてください。

テスト サクズ <ENT>

② **FUNCTION** を1回押します。

クリーニング <ENT>

③ **△**または**▽**で、[クリーニング]を表示します。

クリーニング :スベテ

④ **ENTER** を1回押します。

クリーニング :カラ-234

- ⑤ または で、クリーニングするヘッド番号を選択します。

クリーニング :ソフト

- ⑥ を押します。

クリーニングタイプの設定画面に変わります。

クリーニング :ノーマル

- ⑦ または で、クリーニングタイプを選択します。

** クリーニング **



<< ローカル >>

- ⑧ で、クリーニングを実行します。

クリーニングを取り消したい場合は、 を押します。手順①の表示に戻ります。

クリーニング終了後、ローカルモードに戻ります。

テスト作図の実行[テスト サズ]

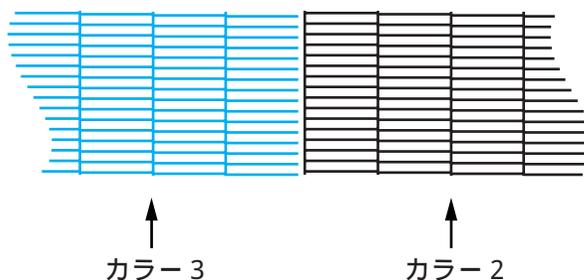
作図する前またはクリーニング機能を実行した後、作図のかすれや欠けが無いかなテストパターンを作図して確認します。

画質に異常がある場合は、クリーニング機能を実行してください。⇒P.48

クリーニング機能を数回実行しても改善しない場合は、弊社までご連絡ください。

リーフ紙にテスト作図する場合は、A4 サイズの横置き以上のサイズのメディアを使用してください。

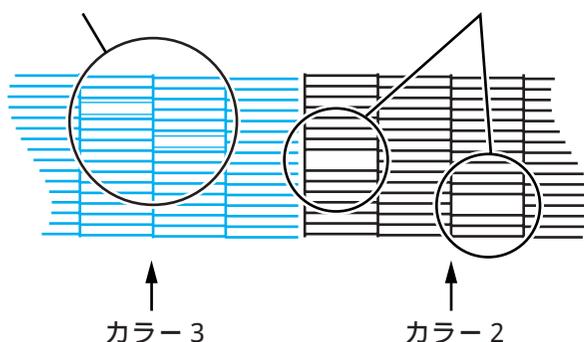
正常なパターン



異常なパターン

線が等間隔でない、または薄い
(ノズルにゴミが付着している)

横線が全く作図されていない
(ノズルが詰まっている)



- 横線 1 本が、1 ノズルに対応しています。
1 色で 2 本の横線が抜けている場合は、2 ノズルが不調ということになります。

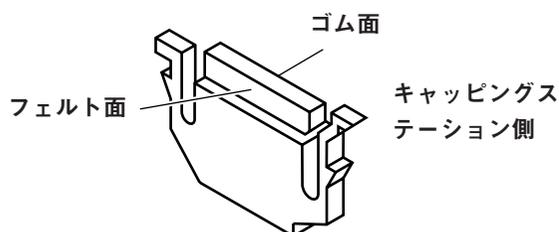
- << ローカル >>**
- ① ローカルモードを表示します。
リモートモードのときは、**REMOTE/LOCAL** を押します。
- テスト サクス` <ENT>**
- ② **FUNCTION** を 1 回押します。
- ** テスト サクス` ****
- ↓
- << ローカル >>**
- ③ **ENTER** を押します。
テストパターンを作図します。
作図終了後、ローカルモードになります。

ワイパのクリーニング[ステーションメンテ]

作図を行っているとき、ヘッドをクリーニングするワイパがインクとゴミで汚れてきます。この場合、綿棒を使って、インクとゴミを除去します。



★ ワイパは、左側面がフェルトで、右側面がゴムになっています。フェルト面は、綿棒でこすらないで押し当てるようにしてゴミを取り除いてください。フェルト面をこすると、毛羽だつてノズル詰まりの原因になります。ゴム面は、綿棒でインクを拭き取ってください。



<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テスト サクス <ENT>

② **FUNCTION** を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

③ **▲** または **▼** で、[メンテナンス] を表示します。

リスト <ent>

④ **ENTER** を押します。

ステーションメンテ <ent>

⑤ **▲** または **▼** で、[ステーションメンテ] を表示します。

メンテ: キャリッジ アウト

⑥ **ENTER** を押します。

または で、[メンテ:キャリッジ アウト]を表示します。



注意

★[ワイパ コウカン]を選択して **ENTER** を押さないでください。本装置内部で管理しているワイパ使用回数がリセットしてしまいます。ワイパを交換する以外は選択しないでください。

⑦ **ENTER** を押します。

キャリッジがキャッピングステーションから出てきます。

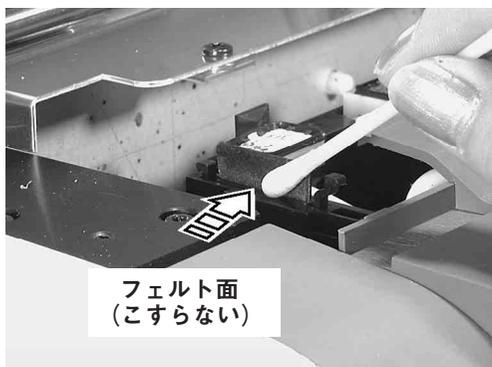
キャリッジは、手で左右に動かすことができます。

⑧ フロントカバーを開けます。

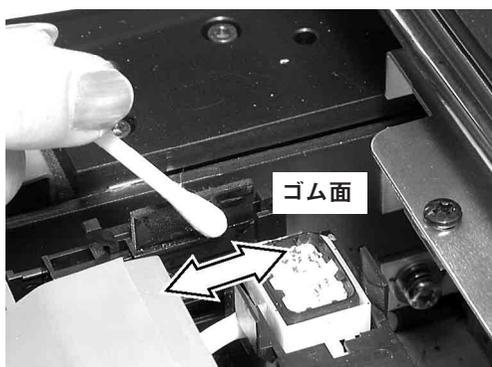
⑨ ワイパを次のようにクリーニングします。

フェルト面は、綿棒で押し当てるようにゴミを取り除いてください。綿棒でこすらないでください。

ゴム面は、綿棒でインクを拭き取ってください。



フェルト面
(こすらない)



ゴム面

シユリヨウ :ent

- ⑩ フロントカバーを閉めた後に、
ENTERを押します。

初期動作後、ローカルモードになります。

ロ-ル< >リ-フ



注意

★このときメディアがセットされている場合は、初期動作後メディア検出の表示になります。



交互に表示します

ハハ : END

ワイパ交換とキャップのクリーニング[ステーションメンテ]

作図を行っているとき、ヘッドをクリーニングするワイパとキャッピングステーションのキャップが汚れてきます。この場合、次のメッセージを表示します。速やかにワイパの交換とキャップのクリーニングを実行してください。

クリーニングワイパは別売品です。販売店または弊社営業所でお求めください。

!ワイパ コウカン



★ 新しいワイパのゴム部分には触れないでください。ノズル詰まりの原因になります。

★ ワイパ交換は、手を汚さないよう付属の手袋を使用してください。万一、インクが手に付いたら、石けんや水ですぐに洗い流してください。

★ 本機能を実行するとキャリッジがキャッピングステーションから出てきます。そのままの状態ですべての時間放置しておくとノズル詰まりの原因になります。ワイパ交換、キャップのクリーニングが終了したら、速やかに **ENTER** を押してキャリッジをキャッピングステーションに戻してください。

ワイパの交換

<< ローカル >>

① **ローカルモード**を表示します。

リモートモードのときは、**REMOTE/LOCAL** を押します。

テスト サクズ <ENT>

② **FUNCTION** を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

③ **△** または **▽** で、**[メンテナンス]** を表示します。

リスト <ent>

④ ENTER を押します。

ステーションメンテ <ent>

⑤ または で、[ステーションメンテ] を表示します。

メンテ:キャリッジ アウト

⑥ ENTER を押します。

メンテ:ワイパ コウカン

⑦ または で、[メンテ:ワイパ コウカン] を表示します。

⑧ ENTER を押します。

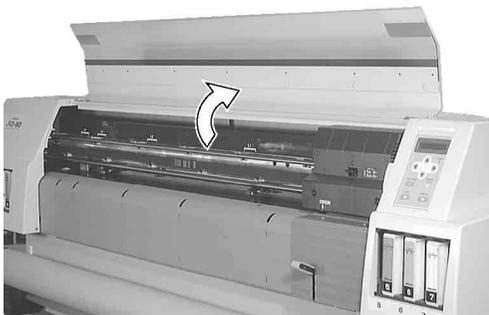
キャリッジがキャッピングステーションから出てきます。

キャリッジは、手で左右に動かすことができます。

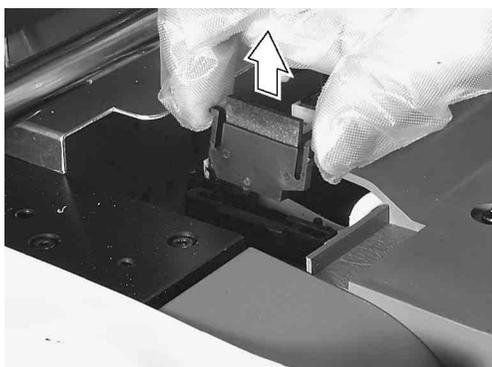


注意

★ワイパを交換する以外は、[ワイパ コウカン] を選択しないでください。本装置内部で管理しているワイパ使用回数がリセットしてしまいます。

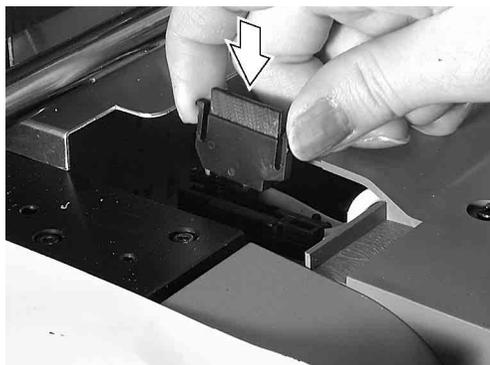


⑨ フロントカバーを開けます。



- ⑩ 両端の突起を持ってワイパを引き抜きます。

別売品のクリーニングワイパセットに付属している手袋をすると、手が汚れません。



- ⑪ 両端の突起を持って新しいワイパを差し込みます。



注意

★新しいワイパのゴム部分には触れないでください。ノズル詰まりの原因になります。

★ワイパのフェルト面が左側になるように差し込んでください。

シュリヨウ :ent

- ⑫ フロントカバーを閉めた後に、**ENTER** を押します。

初期動作後、ローカルモードになります。



注意

★このときメディアがセットされている場合は、初期動作後メディア検出の表示になります。

ロール< >リーフ



交互に表示します

ハハ : END

キャップのクリーニング

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

 を押します。

テスト サクス <ENT>

- ②  を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

- ③  または  で、[メンテナンス]を表示します。

リスト <ent>

- ④  を押します。

ステーションメンテ <ent>

- ⑤  または  で、[ステーションメンテ]を表示します。

メンテ:キャリッジ アウト

- ⑥  を押します。  または  で、[メンテ:キャリッジ アウト]を表示します。

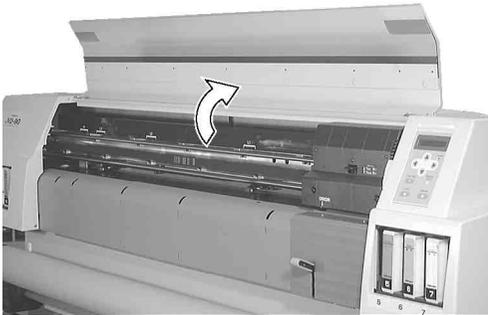


★[ワイパ コウカン]を選択して  を押さないでください。本装置内部で管理しているワイパ使用回数がリセットしてしまいます。ワイパを交換する以外は選択しないでください。

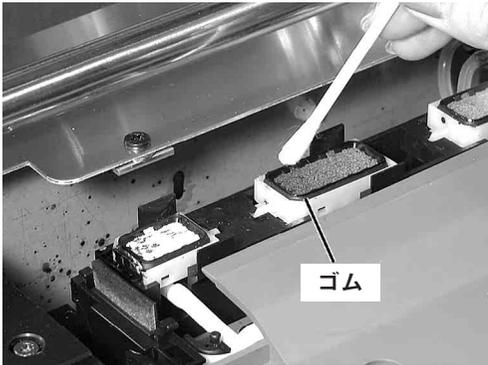
- ⑦  を押します。

キャリッジがキャッピングステーションから出てきます。

キャリッジは、手で左右に動かすことができます。



⑧ フロントカバーを開けます。



⑨ 綿棒でキャップ周りのゴムの汚れを取り除きます。

シュリヨウ :ent

⑩ フロントカバーを閉めた後に、**ENTER**を押します。

初期動作後、ローカルモードになります。

ダンプの実行[ダンプ]

コンピュータから送信されてくるデータコマンドをHEXコードで作図します。これにより、データコマンドに異常がないか確認することができます。

リーフ紙を使用する場合は、A4サイズ以上の用紙を使用してください。



● 出力例を付録Cに示しますので、ご参照ください。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テスト サクス <ENT>

- ② **FUNCTION** を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[メンテナンス]を表示します。

リスト <ent>

- ④ **ENTER** を押します。

ダンプ <ENT>

- ⑤ **△** または **▽** で、[ダンプ]を表示します。

** ダンプ **

- ⑥ **ENTER** を押します。

ホストコンピュータからデータを送信してください。

<< ローカル >>

- ⑦ 作図が終了したら、**REMOTE/LOCAL** を押します。

ローカルモードになります。

- ⑧ ダンプ機能を解除するために、データクリア機能を実行してください。

設定状態の作図[リスト]

次の項目について作図します。メンテナンスにお役立てください。

- ・ ファンクション機能の中の設定機能の値
- ・ ファンクション機能の中のドット位置補正の値
- ・ 各インクカートリッジの交換回数
- ・ 本装置で使用しているファームウェアのバージョン
- ・ サービスマンに必要な各種設定値



● 出力例を付録Cに示しますので、ご参照ください。

<< ローカル >>

① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、
 を押します。

テスト サクス <ENT>

②  を 1 回押します。

メンテナンス <ENT>

③  または  で、[メンテナンス]を表示します。

リスト <ent>

④  を押します。

** リスト **

⑤  を押します。

リストを作図します。
作図が終了すると、ローカルモードになります。

廃インクタンクの交換方法

ヘッドのクリーニングなどで使用したインクは廃インクタンクに溜まります。廃インクの量が廃インクタンクのFULLラインを越えたら、速やかに新しい廃インクタンクに交換してください。

- !** ★ 廃インクタンクの中身および廃インクには毒性がありません。廃インクで満杯になった廃インクタンクは、使用している地域の条例に従い処分してください。



- ① 廃タンクガードのネジを外し、廃タンクガードを開けます。
ネジは、装置裏側にあります。



- ② 新しい廃インクタンクに交換します。
廃インクが入ったタンクにキャップをはめて、処分してください。

- ③ 廃タンクガードを閉じ、ネジで固定します。

裁断用カッター刃の交換

カッター刃は消耗品です。カッター刃の摩耗等でメディアがカットできなかった場合、次のエラーメッセージを表示します。速やかに新しいカッター刃に交換してください。

エラー52 メディアカット



- ★ カッター刃を交換する際は、ステーションメンテ機能でキャリッジを移動した後行ってください。
- ★ 刃先は鋭利です。ケガをしないよう注意してください。
- ★ カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。また、使用済みのカッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。

<< ローカル >>

- ① ローカルモードを表示します。

リモートモードのときは、

REMOTE/LOCAL を押します。

テスト サクズ <ENT>

- ② **FUNCTION** を1回押します。

メンテナンス <ENT>

- ③ **△** または **▽** で、[メンテナンス]を表示します。

リスト <ent>

- ④ **ENTER** を押します。

ステーションメンテ <ent>

- ⑤ **△** または **▽** で、[ステーションメンテ]を表示します。

メンテ:キャリッジ アウト

- ⑥ **ENTER** を押します。

△ または **▽** で、[メンテ:キャリッジ アウト]を表示します。

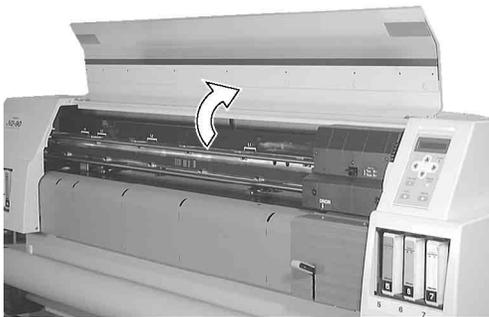


- ★ [ワイパ コウカン] を選択して **ENTER** を押さないでください。本装置内部で管理しているワイパ使用回数がリセットしてしまいます。ワイパを交換する以外は選択しないでください。

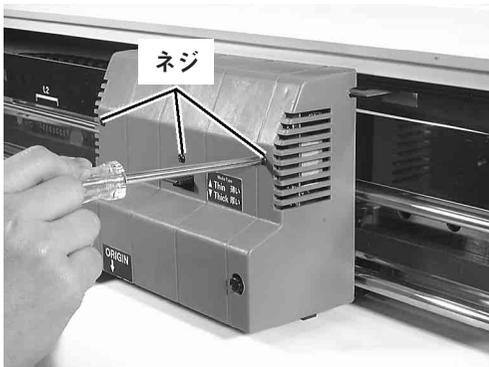
⑦ **ENTER** を押します。

キャリッジがキャッピングステーションから出てきます。

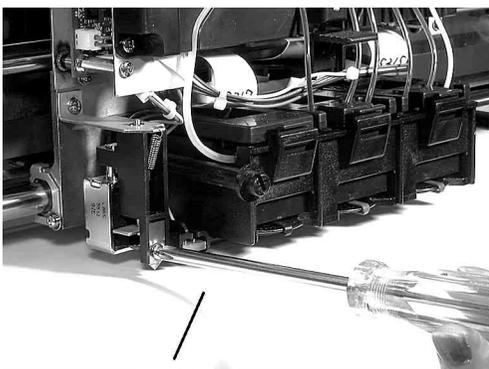
キャリッジは、手で左右に動かすことができます。



⑧ フロントカバーを開けます。



⑨ キャリッジ正面の3ヶのネジを外し、カバーを外します。



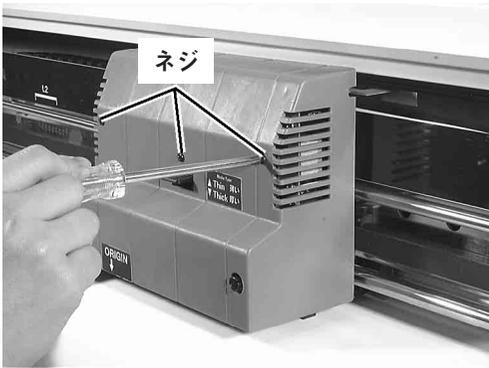
⑩ カッター刃が取り付けられているネジを外し、刃先を交換します。



★刃先でケガをしないよう注意してください。



●カッター刃の下に用紙を敷いておくと、刃先が落ちたときに拾いやすくなります。



- ⑪ 3ヶのネジでキャリッジのカバーを取り付けます。

シュウリョウ :ent

- ⑫ フロントカバーを閉めた後に、
ENTER を押します。

初期動作後、ローカルモードになります。

5章

困ったときは

5章では、本装置になんらかの異常が発生した場合、エラーメッセージを表示した場合のトラブルの解消方法について説明します。

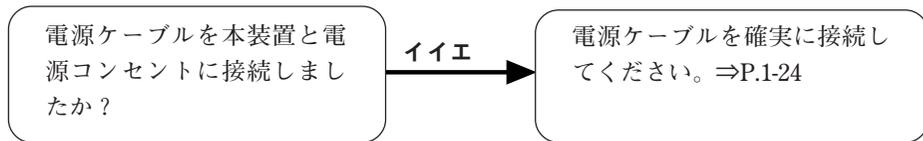
本章の内容

故障?と思う前に
画質不良がでたとき
メッセージを表示するトラブル

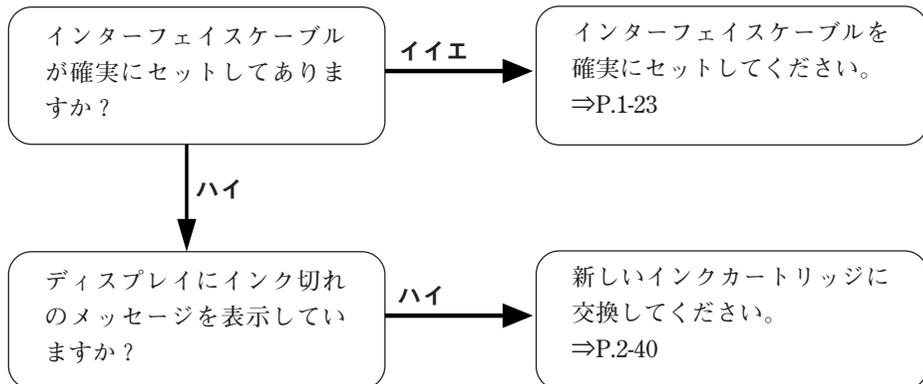
故障?と思う前に

ディスプレイにエラーメッセージが表示されないときのトラブルの対処方法について説明します。故障と思う前に、もう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

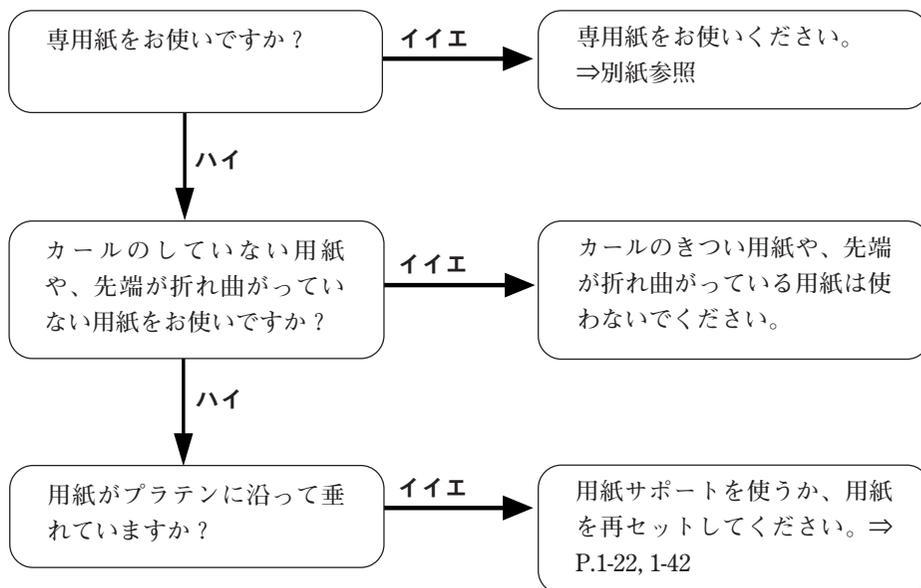
電源が入らない



作図できない



紙づまりが起こる／メディアが汚れる



画質不良がでたとき

ここでは、作図品質に問題があるときの対処方法を説明します。
症状に従って対処してください。
対処しても、なおらない場合は販売店または弊社営業所にご連絡
(サービスコール) ください。

白いスジ／カスレが気になる (ヘッド移動方向)

対処方法： ヘッドクリーニングを実行してください。
⇒4-8 ページ

往復印字でズレが発生する

対処方法： 「ドット位置補正」機能で、「Y往復」の調整をしてください。
⇒4-2 ページ

色ごとにインクが重ならない

対処方法： 「ドット位置補正」機能を実行してください。
⇒4-2 ページ

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。
メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングエラー

インク関連に対して発生します。

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">!カートリッジ</div>  交互に表示 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">[1234567]</div>	インクカートリッジが、インクステーションに取り付けてありません。	表示している番号のインクカートリッジをインクステーションに取り付けてください。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">!インクニアイント</div>  交互に表示 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">[1234567]</div>	インクカートリッジのインク残量が少なくなりました。	REMOTE/LOCAL を押すと、1ファイルごと作図できます。早めに、表示している番号のインクカートリッジを交換してください。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">!インクイント</div>  交互に表示 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">[1234567]</div>	インクカートリッジのインクが終わりました。	表示している番号のインクカートリッジを交換してください。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">!ワイパ コウカン</div>	キャッピングステーションのワイパ交換時期です。	REMOTE/LOCAL を押すと、作図ができます。電源を入れる度にエラーを表示しますので、早めの新しいワイパに交換してください。

5

困ったときは

エラーメッセージ

エラーメッセージは、エラー番号を表示します。
 エラーメッセージを表示した場合は、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。
 それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
I17-03 ハット RAM	制御RAMに異常が発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
I17-04 EEPROM	パラメータROMに異常が発生しました。	
I17-05 CPUsci	制御基板に異常が発生しました。	
I17-06 EDO-DRAM	標準のEDO-DRAMに異常が発生しました。	
I17-07 EDO-DRAM.S	増設EDO-DRAMに異常が発生しました。標準のEDO-DRAMのみで動作します。	
I17-08 パワー	モーター関係に異常が発生しました。	
I17-10 コマンド	コマンドデータ以外のデータを受信しました。	インターフェイスケーブルを確実に接続してください。
I17-11 パラメータ	数値範囲外のパラメータを受信しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
I17-20 I/Fボード	インターフェイス基板に異常が発生しました。	

エラーメッセージ	原因	対処方法
I7-21 I/Fナシ	インターフェイス基板を装着していません。	インターフェイス基板を装着してください。
I7-22 SIMM SLs r	I/Fボード上のSIMMが認識または初期化できませんでした。 s : スロット番号 (0または1) r : 4= 認識不可 5= 初期化不可 認識されたSIMMのみで動作します。	弊社推奨のSIMMを使用してください。
I7-23 ホストI/F	ホストコンピュータとI/Fボードとの通信にタイムアウトエラーが発生しました。	ケーブルが確実に接続してあるか、またはホストコンピュータ側でエラーが発生していないか確認してください。
I7-30 オペレーション	操作パネルで不当なオペレーションをしました。	正しいオペレーションをしてください。
I7-31 データナシ	データを受信していないのに、コピー機能を実行した。	一度、データを受信してください。
I7-32 データがオキイ	受信済みのデータ容量が大きくて、コピー機能を使用できません。	受信バッファ容量より小さいデータを使用してください。
I7-34 データアリ	受信済みで未作図のデータがあるのに、ファンクション機能で設定を変更しようとした。	受信済みのデータを全て作図するか、データクリアを実行してから、設定を変更してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
Iラ-40 モーターアラーム X	モーターに過大な負荷がかかりました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
Iラ-41 モーターアラーム Y	フロントカバーが開いています。	フロントカバーを閉めて、 ENTER キーを押してください。
	モーターに過大な負荷がかかりました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
Iラ-42 Xオーバーカレント	モーターの過電流エラーを検出しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
Iラ-43 Yオーバーカレント	モーターの過電流エラーを検出しました。	
Iラ-50 ヨウシ ケンシユツ	用紙検出ができませんでした。	セットしたメディアの右端の位置が不適切です。「ロール紙のセット位置」および「リーフ紙のセット」をご覧ください。(⇒P.1-42, 2-6, 2-11) 正しくセットしても、エラーを表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
Iラ-51 Yゲンテン	原点検出ができませんでした。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> エラー-52 メディアカット </div>	<p>カッター刃の消耗等でメディアがカットできません。</p>	<p>クランプレバーを上げてから、新しいカッター刃に交換してください。 (⇒P.4-23)</p> <p>なお、複数のファイルを連続して送信している最中に本エラーが発生した場合は、エラーが発生した時点で作図が停止します。再度ファイルを送信してください。</p>
	<p>切り落としたメディアがプラテン上に残っています。</p>	<p>切り落としたメディアが短い場合、プラテン上に残ってしまう場合があります。</p> <p>クランプレバーを上げ、残っているメディアをプラテン上から取り除いてください。</p>

付録

付録では、各種仕様や構成、ファンクションメニュー構造、および出力サンプルなどを示します。

本章の内容

- A 基本仕様
- B ファンクションメニュー構造
- C 出力サンプル
- D 警告ラベルの添付位置

A 基本仕様

本体仕様

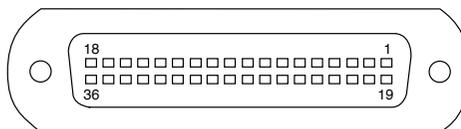
項目		JV2-160	JV2-180
作図ヘッド部	方式	ヘッド部ドロップオンデマンドピエゾヘッド	
		分解能 360dpi	
最大作図範囲		幅：1600 mm、長さ：50 m	幅：1870 mm、長さ：50 m
距離精度		±0.5 mmまたは指定距離の±0.3 %の大きい方	
作図モード	解像度	①180×180 (dpi)、②360×360 (dpi)、③720×720 (dpi)	
	作図方式	単方向、双方向	
	作図速度	標準、高速	
	パス	180×180 (dpi) : 2パス 360×360 (dpi) : 2パス、4パス、8パス 720×720 (dpi) : 4パス、8パス 1440dpiモード : 8パス、16パス	
	ドット位置	1ドット以内 (相対ドット位置誤差)	
デッドスペース	ロール紙	前 : 20mm±2mm、後 : 0mm±0.5mm 左 : 5mm±0.5mm、右 : 5mm±0.5mm	前 : 20mm±2mm、後 : 0mm±0.5mm 左 : 5mm±0.5mm、右 : 25mm±0.5mm
	リーフ紙	前 : 20mm±2mm、後 : 35mm±2mm 左 : 5mm±0.5mm、右 : 5mm±0.5mm	前 : 20mm±2mm、後 : 35mm±2mm 左 : 5mm±0.5mm、右 : 25mm±0.5mm
メディア	種類	PVC (光沢、マット)、PET (光沢) 合成紙、 電飾フィルム、専用キャンバス、専用クロス、 フォトペーパー、ターポリン	
	セット方法	クランプレバーによる手動クランプ	
	用紙サイズ	最大幅：1620 mm	最大幅：1910 mm
サイズ検出		幅：メディア端、長さ：メディア端検出	
メディアの裁断		自動横切り (ON/OFF設定可能)、手動横切り	
インターフェイス		双方向パラレルインターフェイス(IEEE1284準拠)、ECP対応	
コマンド		MRL-I (ESC/PV.2ベース) Rev1.5	
電源電圧、電力		AC 100 - 240 V 約120 VA	
外形寸法 (mm)		2425(W) × 710(D) × 1190(H)	2700(W) × 710(D) × 1190(H)
重量		130 kg 以下	150 kg 以下
騒音		作図時連続音59 dB	
安全規格		VCCI classA	

双方向パラレルインターフェイス仕様

■基本仕様

項目	仕様
伝送方式	双方向パラレル (IEEE1284準拠)
信号レベル	TTLレベル
コネクタ	アンフェノール 57-30360相当品

■コネクタ形状と信号表



ピン番号	略称	信号名称	信号の発信元
1	STROBE	データストロブ	コンピュータ
2~9	DATA1~DATA8	データ	コンピュータ
10	ACK	アクノレッジ	本装置
11	BUSY	ビジー	本装置
12	PE	ペーパエンド	本装置
13	SELECT	セレクト	本装置
14	AUTO FEED XT	オートフィードXT	コンピュータ
15	N.C	—	—
16	SG	シグナルグランド	—
17	FG	フレームグランド	—
18	POWER	パワー	本装置
19~30	SG	シグナルグランド	—
31	INPUT PRIME	インプットプライム	コンピュータ
32	DATA ERROR	データエラー	本装置
33	N.C	—	—
34, 35	N.C	—	—
36	SELECT IN	セレクトイン	コンピュータ

インク仕様

項目		仕様
形態		専用インクカートリッジ
色		ブラックインクカートリッジ (SPC-0180K)
		シアンインクカートリッジ (SPC-0180C)
		マゼンタインクカートリッジ (SPC-0180M)
		イエローインクカートリッジ (SPC-0180Y)
		オレンジインクカートリッジ (SPC-0180O)
		グリーンインクカートリッジ (SPC-0180G)
		蛍光ピンクインクカートリッジ (SPC-0186FP)
		ライトシアンインクカートリッジ (SPC-0180LC)
		ライトマゼンタインクカートリッジ (SPC-0180LM)
インク使用可能量		200 cc/カートリッジ
有効期間		製造日より2年間 (常温)
		開封から6カ月以内
保存温度	保存時:	-30℃～40℃ (40℃の場合1カ月以内)
	輸送時:	-30℃～60℃ (60℃の場合120時間以内、40℃の場合1カ月以内)



- ★ インクは、-4℃以下の環境で長時間放置すると凍結します。万一、凍結した場合は、室温（25℃）で3時間以上かけて解凍してから使用してください。
- ★ インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。

増設受信メモリ仕様

16 MB、32 MB、または64 MB×2枚
5 V、72ピン
32ビット構成
2048回/32msリフレッシュ
アクセスタイム60ns

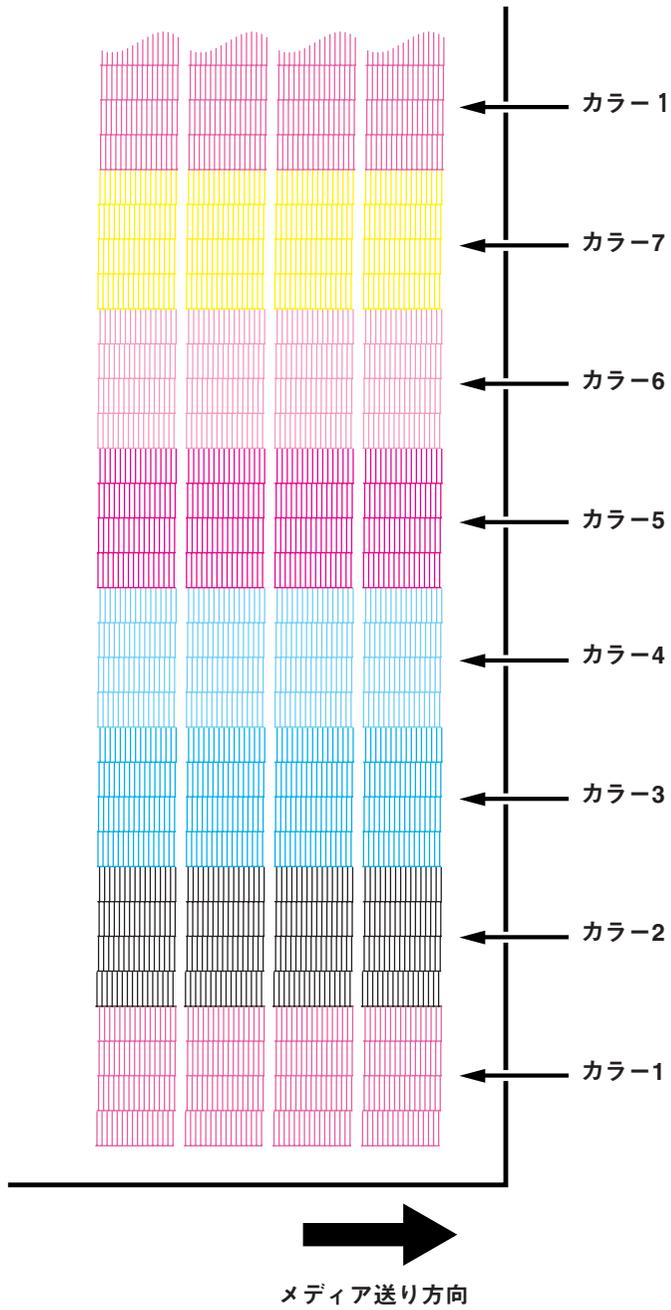
B ファンクションメニュー構造

テストサクス (P.4-10)			
クリーニング (P.4-8)	ヘッド	全て、カラー1、カラー234、カラー567	
	タイプ	ソフト、ノーマル	
データクリア (P.2-17)		ENT	
セッテイ機能	ユーザー*	(P.2-22)	作図方式
	1~4 (P.2-20)		方向
			速度
			分割
			方向
			速度
			分割
			ARTワークモード
			ARTワークモード
			作図
			濃度
			1440dpiモード
			1440dpiモード
			分割
			360dpi拡張
			送り補正
			重ね塗り
			乾燥時間
			スキャン
			オートカット
			オートカット
			優先順位
			右マージン
			リフレッシュ
			メディア検出
			吸着
			ミリ/インチ
			セッテイリセット
			ENT
メンテナンス	リスト	ENT	
	ダンプ	ENT	
	ドット位置補正	X方向	
		Y往路	
		Y復路	
		Y往復	
		テスト作図	
		ワイバ交換	
		キャリッジアウト	
	インク充てん	全て、カラー1、カラー234、カラー567	
	インク排出	カラー1	
	アートワークテスト	ノズルチェック	
		ヌリツブシ	
コピー (P.3-9)		1~999枚	
DISPLAY (P.3-8)		Japanese、English、German、French、Italian、Portuguese	

下線の値は、工場出荷時の設定値です。

C 出カサンプル

テスト作図



リスト

現在、選択しているユーザー番号を<>で囲みます

優先順位がホストコンピュータの場合はH、操作パネルで設定した値の場合はPになります。

(1) セッテイ	< 1-サー-1 >				1-サー-2	1-サー-3	1-サー-4							
サクス ネット	スタンダード	スタンダード	スタンダード	スタンダード	4pass:H	4pass:H	4pass:H							
オートワークモード	OFF	OFF	OFF	OFF	STANDARD	ノーマル	OFF							
1440dpiモード	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	16pass	ON							
スキャナ	1	+0.0mm	:H	1	+0.0mm	:H	1	+0.0mm	:H					
スキャナ	1	0.0s	0s	:H	1	0.0s	0s	:H	1	0.0s	0s	:H		
オートカット	OFF	:H	OFF	:H	OFF	:H	OFF	:H	OFF	:H				
ミキ マージン	0mm	:H	0mm	:H	0mm	:H	0mm	:H						
リプレッシュ	レベル3	:H	レベル3	:H	レベル3	:H	レベル3	:H						
メチエアファンジュ	ゼロ	:H	ゼロ	:H	ゼロ	:H	ゼロ	:H						
スキャナ	ヒョウシユン	:H	ヒョウシユン	:H	ヒョウシユン	:H	ヒョウシユン	:H						
ミリインチ	ミリ	:H	ミリ	:H	ミリ	:H	ミリ	:H						
(2) DISPLAY	Japanese													
(3) ドット イチ ホセイ	カラ-	1-2	カラ-	2-5										
X ネット	0		0											
Y ネット	0		0											
Y ネット	0		0											
Y ネット	0		0											
(4) ランニングメーター	カラ-	1	カラ-	2	カラ-	3	カラ-	4	カラ-	5	カラ-	6	カラ-	7
カートリッジ	1		3		1		2		1		3		2	
スタン	12(X10000)													
(5) VERSION	MAIN : 3.00 0:20 1:20													
	1/F : 1.00 SIMM1: 00M SIMM2: 00M 1284:45													
(6) パラメータ	-10	0	2											
	55	-2	0	5										
	15	-10	0	5										
	-25	-10	0	5										
	25	-10	0	5										
	-35	-10	0	5										
	0	36	0	5										
	50	12	0	8										
	119	10	15	10										
	0	10	13	0										
	4	0	1	5000										
	5	0	15	2										
	0	20	14	0										
	0	0	2	0										
	0	0	18	2										
	0	0	15	0										

リストの説明

- (1) セッテイ ファンクション機能で設定した値を示します。
- (2) DISPLAY 操作パネルで設定した表示言語を示します。
- (3) ドット イチ ホセイ ... ドット位置補正の値を示します。
- (4) ランニングメーター 各色のインクカートリッジの交換回数、およびスキャン回数を示します。
- (5) VERSION 本装置のファームウェアのバージョンと搭載メモリの容量を示します。
- (6) パラメータ メンテナンス用にサービスマンが使用します。

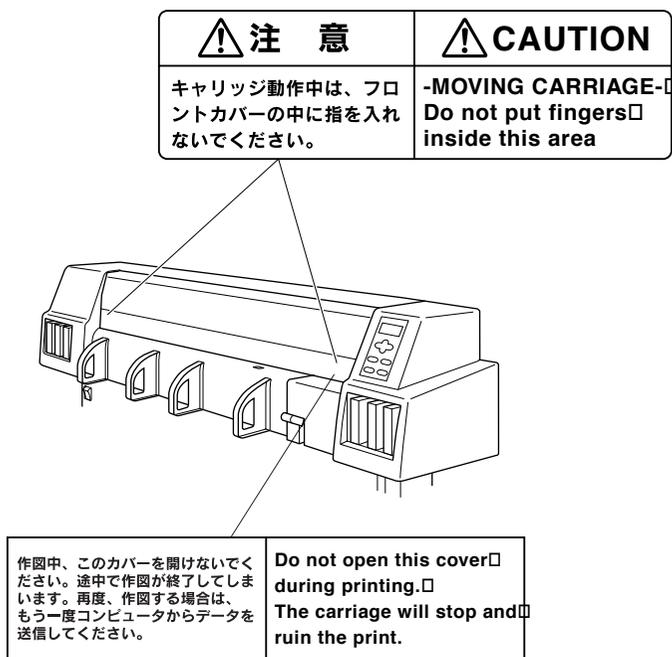
ダンプリスト

```
          Ver1.00 I/F1.00 SIMM1: 32M SIMM2: 32M
          カンプ
1B 40 1B 55 01 4D 44 68 01 68 01 4D 50 04 01 01 00 00 00 00 00 00 4D 52 00 4D 56 00 00 00 00 4D 48 00 00
00 00 1B 28 72 02 00 00 02 1B 2E 01 0A 0A 01 70 42 39 08 10 40 81 00 20 08 10 40 82 10 82 02 04 20 10 81
04 08 21 00 00 08 10 00 82 08 00 00 41 04 08 10 84 08 10 08 20 08 10 41 02 00 01 01 00 20 08 00 80 40 10
08 20 08 10 41 02 FE 00 34 04 08 10 00 80 40 10 82 10 08 10 41 02 08 00 04 20 10 00 04 00 10 80 20 08
08 00 02 08 00 01 04 08 02 01 04 04 01 00 20 08 10 01 02 00 81 01 04 00 02 01 04 FD 00 FF 08 FF 00 00 08
FE 01 5F 08 00 00 04 00 01 01 00 08 10 42 02 08 02 01 04 20 10 81 04 04 10 08 20 82 08 10 82 08 02 01 01
04 08 00 80 41 01 02 10 08 10 08 00 10 02 01 04 20 42 08 10 01 02 08 21 02 08 40 80 08 08 01 04 20 42 08
10 4C 21 00 20 08 10 40 00 08 02 00 00 04 00 00 80 00 00 81 02 08 10 40 02 08 02 04 FE 00 06 81 00 10
08 00 00 01 FE 00 FF 01 06 00 04 08 20 80 00 10 FE 00 26 10 00 00 08 00 00 04 08 02 00 00 04 01 08 21 08
10 00 00 10 01 02 04 08 00 00 01 04 10 08 20 82 08 00 80 08 00 00 40 F7 00 00 08 F9 00 2A 84 04 01 00 20
00 00 40 82 00 01 01 00 20 00 00 81 04 01 00 20 08 10 40 02 02 04 01 00 20 08 10 80 40 10 08 00 00 10 08
02 00 82 F8 00 02 20 00 08 FE 00 04 81 00 20 20 02 FE 00 08 10 08 20 00 08 00 02 00 01 FD 00 15 08 04 00
10 08 20 08 10 40 80 00 81 01 00 08 08 00 01 04 01 01 08 FE 00 0C 80 08 08 10 20 00 42 01 00 00 10 81 02
FE 08 44 02 08 02 01 00 20 10 08 41 04 21 00 20 82 10 40 82 08 01 00 00 20 10 08 04 04 10 82 10 20 41 08
20 10 82 02 04 20 08 20 04 04 10 08 00 08 08 00 02 08 02 01 04 20 10 20 84 04 01 01 02 08 00 40 82 08 01
01 04 FE 08 FF 44 5A 21 08 20 82 08 10 82 10 82 02 04 20 84 10 84 04 10 81 02 10 40 00 82 08 08 01 00 00
08 10 04 08 21 08 21 08 10 42 20 40 82 01 04 04 08 00 80 04 10 08 20 82 08 41 02 10 81 02 04 08 10 81 04
01 02 08 21 08 10 41 02 08 08 21 04 20 42 10 84 08 20 81 02 08 08 42 04 10 81 02 04 FE 08 4C 10 41 02 08
21 08 10 42 10 42 08 21 08 44 10 82 10 42 10 80 20 08 10 40 80 10 01 01 04 20 84 21 04 04 21 08 20 42 10
40 82 08 86 4C 44 21 08 21 04 42 10 82 10 88 44 20 82 08 08 11 04 20 40 01 04 04 10 82 10 20 40 41 02 00
01 01 04 FE 08 7E 04 00 01 01 02 22 10 42 10 40 82 02 04 04 08 21 04 08 21 08 21 08 42 08 42 10 82 10 84
21 08 82 10 41 04 08 20 82 10 41 02 08 08 02 04 20 84 21 04 04 10 82 10 82 08 02 02 04 04 08 21 04 08 20
04 08 21 08 21 08 10 41 04 10 41 02 04 20 42 10 84 08 21 08 42 10 82 10 82 08 02 02 04 04 08 21 04 08 20
08 20 08 10 41 04 10 41 08 41 08 10 20 84 04 10 08 20 08 21 08 84 20 82 10 41 08 10 7E 08 10 41 01 02 10
08 42 08 20 42 08 21 04 08 10 82 11 08 21 08 20 42 08 10 82 08 41 01 04 08 08 21 04 08 20 80 20 02 10 41
04 10 84 10 41 08 42 10 04 04 10 81 08 42 10 40 82 10 82 10 84 20 88 82 10 41 04 10 82 08 42 08 42 10 82
11 31 A0 42 10 84 44 21 08 21 08 42 10 82 10 84 11 08 20 88 A8 84 04 10 81 02 08 10 42 08 20 84 10 84 21
08 82 10 44 21 08 42 08 42 10 82 02 08 82 65 21 16 08 88 84 41 04 10 82 10 84 10 82 08 42 11 04 20 42 10
84 44 42 10 84 FE 44 0D 42 90 86 C4 44 21 08 88 84 44 44 21 08 42 FC 11 33 08 44 21 92 2A 22 21 11 08 88
```

D 警告ラベルの添付位置

本装置には、2種類の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。

なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。



索引

A	ア
AC インレット 1-9, 1-24	アートワークテスト 2-25, 2-29, 2-32, 2-33
	アートワークモード 2-24
	安全にお使いいただくために 2
	絵表示について 2
	絵表示の例 2
B	イ
B ファンクションメニュー構造 付録-5	
C	
C 出力サンプル 付録-6	移動方法 1-48
ダンプリスト 付録-8	インクジェネレーション 2-46
テスト作図 付録-6	インクニアート 5-5
リスト 付録-7	インクハッシュ 2-45
D	インクカートリッジ ... 1-7, 1-28, 1-29, 1-30, 2-40, 2-41, 2-43, 4-2
DISPLAY 3-8	- について 5, 1-28, 1-29, 1-30, 1-31
D 警告ラベルの添付位置 付録-9	取り扱い上の注意 1-28
E	- の交換 2-40, 2-41, 2-43
END キー 1-13	- の交換方法 2-42
ENTER キー 1-13	インク乾燥時間
F	- と用紙カット時間の設定 2-36
FUNCTION キー 1-13	オートカット 2-36
P	スキャン 2-36
POWER ランプ 1-12	インク仕様 付録-4
R	インクステーション 1-30, 2-44
REMOTE/LOCAL キー 1-13	インク ニアート 2-40, 2-41, 2-43
X	インクの充てん 1-29
X方向のパターン 4-2	インクヘッドについて 1-32
Y	インクを充てんする 2-46
Y方向の往復パターン 4-3	インクを排出する 2-45
Y方向の往路・復路パターン 4-3	インターフェイスケーブル 1-23
	エ
	絵表示について 2
	絵表示の例 2
	エラ-03 ハット RAM 5-6
	エラ-04 EEPROM 5-6
	エラ-05 CPUi/f 5-6
	エラ-06 EDO-DRAM 5-6
	エラ-07 EDO-DRAM.S 5-6
	エラ-08 ハワー 5-6
	エラ-10 コマンド 5-6
	エラ-11 ハラメータ 5-6

エラー-20 I/Fホート	5-6
エラー-21 I/Fナシ	5-7
エラー-22 SIMM SLs r	5-7
エラー-23 ホストI/F	5-7
エラー-30 オペレーション	5-7
エラー-31 データナシ	5-7
エラー-32 データがオカキ	5-7
エラー-34 データアリ	5-7
エラー-40 モーターアラーム X	5-8, 5-9
エラー-41 モーターアラーム Y	2-11, 5-8
エラー-42 Xオーバーカレント	5-8
エラー-43 Yオーバーカレント	5-8
エラー-50 ヨウシケンシュツ	5-8
エラー-51 Yゲンデン	5-8
エラーメッセージ	5-6

オ

オートカット	2-36, 2-38, 2-39, 3-13
応用機能	3-1
送り補正	3-13
おくり せい	2-34, 2-35
お手入れ	2-48
外装のお手入れ	2-48
紙粉の除去	2-48
重さ	1-42
オリジン	1-10, 1-13
オリジン位置マーク	1-10

カ

カートリッジ	5-5
カールしたメディア	2-2
ガイドレール	1-9, 1-43
各種設定値のユーザー選択	2-20, 2-21
各色のヘッドのズレ補正	4-2
各部の名称とはたらき	1-6
前面	1-6
インクカートリッジ	1-7
脚	1-7
キャリッジ	1-7
クランプレバー	1-7
操作パネル	1-7
電源スイッチ	1-7
廃インクブラケット	1-7
ピンチローラ	1-7
フィードローラ	1-7
プラテン	1-7
フロントカバー	1-7
巻き取り装置	1-7
メディアセンサー	1-7

用紙サポート	1-7
背面	1-8
AC インレット	1-9
ガイドレール	1-9
シャフト	1-9
電装ボックス	1-9
廃インクタンク	1-9
パラレルコネクタ	1-9
ホルダーベースネジ	1-9
ロールホルダー	1-9
ロールホルダーベース	1-9
各モードについて	1-27
ノットレディモード	1-27
ファンクションモード	1-27
リモートモード	1-27
ローカルモード	1-27
各ユーザー内の設定値を変更したい場合	2-20
重ね塗り	3-13
かすり	3-4
重ね塗りの設定	3-4
画質不良がでたとき	5-4
色ごとにインクが重ならない	5-4
往復印字でズレが発生する	5-4
白いスジ/カスレが気になる	5-4
カッター部	1-10
カラー1	4-8
乾燥時間	3-13
カンゾウガシ	2-36, 2-37

キ

キー	6
基本仕様	付録-2, 付録-3
本体仕様	付録-2
外形寸法	付録-2
距離精度	付録-2
作図ヘッド部	付録-2
作図モード	付録-2
重量	付録-2
騒音	付録-2
デッドスペース	付録-2
電源電圧、電力	付録-2
メディア	付録-2
メディアの裁断	付録-2
基本動作・基本機能	2-1
脚	1-7, 1-14, 1-15
-と本体の組み立て	1-14
キャッピング	1-11, 2-47
-ステーション	1-11
キャップ	1-11
	2-47

キャッピングステーション	1-11
キャップ	1-11
-のクリーニング	4-15
キャリッジ	1-7, 1-10, 1-35, 2-5, 4-24
オリジン位置マーク	1-10
カッター部	1-10
高さ調整レバー	1-10
ヘッド部	1-10
キューチャク	3-14

ク

組み立て	1-14
クランプレバー	1-7, 1-35, 1-38, 1-39, 1-45
クリーニング	1-11
クリーニング	4-8
クリーニングタイプ	4-8

ケ

ケーブルコネクタ	1-23
ケーブルの接続	1-23
警告	3
原点	1-10, 2-18, 2-19
- (作図原点) の設定	2-18, 2-19

コ

故障?と思う前に	5-2, 5-3
紙づまりが起こる/メディアが汚れる	5-3
作図できない	5-2
電源が入らない	5-2
コネクタ	1-19
コピ-	3-9
困ったときは	5-1
ゴムキャップ	1-3, 1-17

サ

作図原点	1-10, 1-13, 2-13
作図の開始	2-16
リモート表示が点滅したら	2-16
作図フィルム	1-5
作図方向	2-22, 2-23
2pass	2-22
4pass	2-22
8pass	2-22
高速	2-22
-と分割方式の設定	2-22, 2-23
双方向	2-22
単方向	2-22

標準	2-22
サイズ 補助	2-22, 2-23
作図面	1-42
作図を中止するには	2-17

シ

*シート が アリマセン *	2-6
紙管の内径	1-42
シャフト	1-9, 1-43
出力サンプル	付録-7
手動で用紙をカットするには	3-11
使用上の注意	4
使用できるメディア	2-3
ジョグキー	1-12, 1-13
-のはたらき	1-13
機能選択時	1-13
シート検出後	1-13
シート検出前	1-13
選択肢入力時	1-13
白いスジ	白スジを参照

ス

スキャン	2-36
ステー	1-15, 1-17
ステーション番号	2-40
ステーションメンテ	4-12, 4-15
スベテ	4-8

セ

接地アダプタ	1-24
設置上の注意	5
設置スペース	1-2
設置場所	1-2
設置スペース	1-2
セティリセット	2-24, 2-26, 2-27, 3-16
設定状態の作図	4-21
設定値の初期化	3-16
設定値の優先順位の設定	3-12
パネル	3-12
ホスト	3-12
セットアップ	1-1
セレクト	1-37

ソ

操作パネル	1-7, 1-12
-の名称とはたらき	1-12
END キー	1-13

ENTER キー	1-13
FUNCTION キー	1-13
REMOTE/LOCAL キー	1-13
ジョグキー	1-12
ディスプレイ	1-12
POWER ランプ	1-12
増設メモリ	3-9
双方向	
-パラレルインターフェイス	1-9, 付録-3
ソフト	4-8

タ

高さ調整レバー	1-10, 1-40, 2-2
タンクガイド L	1-18
ダンプ	4-20

チ

違う種類のインクに入れ替える場合	2-45
------------------------	------

テ

データクリア	2-17
ディスプレイ	6, 1-12, 3-6
-とキーの表記	6
-の表示言語の設定	3-6, 3-8
テストサズ	4-10
テスト作図	
-の実行	4-10
デッドスペース	2-4, 3-2
デッドスペースの変更	
の変更	3-2
電圧	1-24
電源	1-24, 1-25
-ケーブル	1-4, 1-23, 1-24
-のオフ	1-26
-のオン	1-25
電源スイッチ	1-7
電装ケース	1-18
電装ボックス	1-9

ト

同一データの再作図	3-9
特色インク	2-45
特色のみで出力	2-24
ドット付紙	4-2

ヌ

ヌリツブシ	2-26, 2-28, 2-32
-------------	------------------

ノ

ノーマル	4-8
ノズルチェック	2-26

ハ

廃インクタンク	1-9
-の交換方法	4-22
廃インクブラケット	1-7, 4-22
廃タンク	1-18
-ガード	1-18
幅	1-42
ハバ	1-37
パラレルコネクタ	1-9

ヒ

左脚	1-3
ピンチローラ	1-7, 1-33, 1-44

フ

ファンクション機能	1-13
ファンクションモード	2-14
フィードローラ	1-7, 1-33, 1-43, 1-44
付属品の確認	
作図フィルム	1-5
電源ケーブル	1-4
左脚	1-3
本体取付用ボルト	1-5
.....	1-3
ゴムキャップ	1-3
六角レンチ	1-3
プラテン	1-7
付録	付録-1
フロントカバー	1-7, 1-41, 2-5
の開閉について	2-5
-とレバーについて	4

ヘ

ヘッド	2-47, 4-8
-クリーニング	4-9
ヘッドストッパーの取り外し	1-22
-のクリーニング	4-8
-の高さを調整	1-40

-の保護	2-47
キャッピング	2-47
-のリフレッシュレベルの設定	4-6
ヘッド5、6、7	4-8
ヘッド部	1-10

ホ

ホルダーベースネジ	1-9
本書の構成	7
本書の読み方	6
本書の構成	7
本装置の移動	1-48
移動方法	1-48
本装置の特長	8
本体	1-17
-取付用ボルト	1-5

マ

巻き径	1-42
巻き取り装置	1-7

ミ

ミギマージン	3-2
ミリ/インチ	3-6

メ

メッセージを表示するトラブル	5-5
エラーメッセージ	5-6
ワーニングエラー	5-5
メディア1-33, 1-35, 1-39, 1-40, 1-47, 2-2, 2-6, 2-38, 2-39, 3-14	
-取り扱い上の注意	2-2
-のセット	1-33
ピンチローラとフィードローラの関係	1-33
-の厚さ	2-2
-の吸着力の設定	3-14
ヒョウジュン	3-14
ヨワイ	3-14
-の交換	2-6
リーフ紙のセット	2-11
ロール紙の交換	2-20
-の自動裁断	2-38, 2-39
-の伸縮	2-2
-の取り扱い方	2-2
メディアカット	3-11
メディア検出について	1-35
メディア検出の設定	1-37

セレクト	1-37
ハバ	1-37
メディア検出方法	1-39
リーフ	1-39
メディアセンサー	1-7, 1-36
メニューの基本操作	2-14, 2-15
メンテナンス機能	4-1

ユ

ユーザー 1	2-20
有効作図エリア	2-4
ユゼン ジュイ	3-12

ヨ

用紙	4, 2-34, 2-35
-について	4
-の送り量を補正	2-34, 2-35
用紙サポート	1-7

リ

リーフ	1-39
リーフ紙	2-4
リーフ紙のセット	2-11
リスト	4-21
リフレッシュ	4-6
リフレッシュ	4-6
リモートモード	1-13, 2-14

レ

レベル 0	4-6
-------------	-----

ロ

ローカルモード	1-13, 2-14, 2-20
ロール	1-39
ロール紙	1-42, 2-4
-のセット	1-42
巻き径	1-42
-の交換	2-6
ロールホルダー	1-9, 1-42
ロールホルダーベース	1-9
六角レンチ	1-15, 1-3

ワ

ワーニングエラー	5-5
!インクニアド	5-5
!カートリッジ	5-5
!ワイハ° コウカン	5-5
ワイパ	
-交換	
-とキャップのクリーニング	4-15

JV2-160/180 取扱説明書

2000年5月

発 行 者 株式会社ミマキエンジニアリング
発 行 所 株式会社ミマキエンジニアリング
長野県小県郡東部町大字加沢 1333-3
〒389-0514 Tel:0268-64-2413 (代)

D200513-1.00-24042000

MIMAKI

Printed in Japan

D200513

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 2000